

## ピースボート「地球一周の船旅」 航海日誌(1～30回)

ピースボート地球一周の船旅(Voyage117) 航海日誌・全60回		
1	4月15日	ビルような巨船に乗船
2	19日	一直線で200m超の船室廊下
3	〃	最初の寄港地・深圳(シンセン)で事件勃発
4	21日	船長主催の歓迎会
5	22日	船上で「学校給食世界一」を講演する
6	24日	初めて知ったシンガポール歴史の真実
7	25日	オブショナルツアーの選択
8	27日	インド洋の日の出
9	29日	船内でPCR陽性者が出る
10	2日	世界で最も美しい海のセーシェルに寄港
11	3日	イベルメクチンの真実を知らない人が多い
12	4日	囲碁・将棋大会への参加
13	5日	船の揺れと船酔い
14	7日	天空に広がる満点の星に感動
15	10日	アフリカ南東部の大都市ポートエリザベスに接岸
16	12日	荒れる合流海域に巨船も翻弄される
17	15日	乗船一か月
18	〃	世界最古のナミブ砂漠に感動
19	17日	南半球は太陽が西から昇る!?
20	19日	ガーナで野口英世に会えないのは残念
21	20日	沖縄返還の密使・密約のすべてを語る
22	22日	運動会順延でクルーズディレクターにインタビュー
23	23日	洋上・大運動会の開催
24	26日	11日ぶりに見えた陸の明かり
25	27日	カナリア諸島で食べたスペイン料理
26	28日	オカリナのレッスンは始まる
27	30日	延々と続く待ち行列に仰天
28	1日	学校で習わなかったから知らない
29	〃	ノルマンディーに上陸
30	3日	ロンドンで記録的な大渋滞に巻き込まれる
31	5日	憧れの巨大な遺跡列岩を見に行く
32	〃	悲喜こもごもロンドン後遺症
33	6日	冷涼明麗なスカンジナビア半島に接岸
34	7日	ヨーロッパ最大級の氷河が作るフィヨルドを船上から見学
35	9日	白夜の船内生活
36	10日	動く地球表層の岩盤(プレート)の上に立つ
37	14日	船内の大劇場で乗船客主体のイベントを開催
38	17日	広島県から参加した元教員ご夫婦
39	〃	7人の「ウクライナ・ユース・アンバサダー」が乗船
40	19日	自由の女神から始まったニューヨーク寄港
41	〃	NYジャズクラブの雰囲気浸った初日の夜
42	20日	ハドソン川のクルーズ観光に参加
43	25日	パーミュタトライアングルに突入
44	27日	コロンビアに惹かれたあそこ
45	29日	年中気温30度を超える熱帯雨林の国へ
46	30日	朝の食卓にのぼった世界一住みよい国
47	3日	陽気な歓迎と高い物価
48	5日	新札発行の肖像が変わった
49	6日	世界一周旅行の仕組みを知る
50	11日	オーバークラウドツアーの興奮を再び知る
51	12日	メキシコから1週間かけてカナダのバンクーバーに接岸
52	13日	アラスカのケチカン(Ketchikan)に上陸
53	14日	アラスカ湾に浮かぶおびただしい氷塊を見る
54	18日	崩れるハーバード氷河を見る
55	〃	劣化し続ける国家と組織を講演
56	19日	アラスカ・スワードへ最後の上陸
57	22日	空き家を改装してびっくりさせた中日ご夫妻
58	23日	濃霧と時化と強風で荒れるアリューシャン列島の海
59	25日	総括その1 105日間の船旅の仕組み
60	28日	乗船客とスタッフを入れて総勢1500人

## PEACE BOATに乗船し世界一周の旅に出る その1

2024/04/15

### 航路図・航路日程

2024.4.13(土)～2024.7.26(金) [横浜発着105日間]



### ビルのような巨船に乗船しました

乗客2000人、平均年齢70歳代半ばの客船「パシフィック ワールド号」(PEACE BOAT117)に乗船して、105 日間の世界一周の旅に出ました。

4月13日、土曜日、横浜港の大栈橋を出港した PEACE BOAT117(以下、PB117 と表記)は、神戸港で乗船客を乗せ最初の寄港地、中国の深圳に向かいます。

航路は上の地図で見ると、アフリカ大陸の喜望峰をぐるりと回って北上し、イギリス、フランス沿岸からスカンジナ半島さらに、レイキャビクからニューヨークへ向かいます。北米大陸を南下してパナマ運河を経て太平洋へ。メキシコ沖から北上してカナダ、アラスカを経てアリューシャン列島沿いに日本へ向かい、7月27日に横浜港に帰ってきます。

船は7万9千トンと言いますから戦艦大和と同等以上の排水量です。15階建てのバカでかいホテルが海上を移動していく感じです。左右の舷に分かれて配置さ

れた船室は、ホテルと同じようにずらりと窓際に並んでいます。その廊下は一直線に200メートル以上のまっすぐで細い廊下ですから、一番向こうは人間が豆粒ほどのサイズでしか見えません。

船室、つまり乗船客の部屋の扉に、小さな白板で外出先(といっても船内のどこかですが)を書いたメモ用紙が張り出されていたり、簡単な連絡メモなどを張り出している部屋もあります。乗船客とクルーの身分はすべて把握され、しかも全員が「身柄拘束」されています。その上外からは誰も侵入できない船内ですから、セキュリティは万全というわけで、きわめてオープンムードになっています。

一晩かけて14日の日曜日に神戸港に接岸しました。ここで新たに船客を拾って日本を離れ、いよいよ世界一周の旅に出ます。接岸すると手が届くような距離の向こう側に、見送りする人々が多数いるのでびっくりしました。お顔もはっきりと分かる距離ですから、お互いに目線が合うと手を振り合っただけで、出会いと出港の挨拶をします。

賑やかな出港のイベントが終わると間もなく、ポワーツと腹に響くような汽笛が何度か鳴り、巨船は静かに岸壁を離れていきます。すると双方が手を大きく振って、しばしの別れを惜みます。筆者も知らない人々に向かって手を振り、それにこたえて岸壁の人たちも手を振ってきました。徐々に距離が開いていくだけで、例えようもない心細い感情が湧き上がってきます。

岸壁での別れは、誰もが感傷的になるのかもしれませんが。旅立つ人としばしの別れというのに、岸壁で涙を拭いている光景も見えます。そのとき筆者は、戦争に駆り出されていった人々の別れの有様を思いおこし、胸に突き上げてくるものがありました。死地への旅を送った人々と戦場に向かっていった人たちのことです。

岸壁を船が徐々に離れていったとき、兵隊さんとその恋人や肉親たちはどれほど別れを惜んだことか。その別れを包むように、いま聞こえてくるむせび泣くような汽笛が流れていったのです。

複雑な感傷に浸りながら、神戸港を魅惑的に囲む美しい夜景を飽かずに眺めました。こうして筆者の旅路は始まりました。

## PEACE BOAT に乗船し世界一周の旅に出る その2

2024/04/19

### 一直線で 200m超の船室廊下

左右の舷側に並んだ船室は、外から見るといかにも豪華客船という風景ですが、中に入って驚いたのは、船室が左右に並んだ一直線廊下の長さでした。全長 330メートルの巨大な客船ですから、真ん中に背骨のように伸びた一直線の廊下が 200m以上あっても驚くことはありませんが、その廊下を見た瞬間、向こうの端が小さく点になっており、人の姿も見分けがつかせませんでした。



左右の壁はすべて、ホテルと同じような船室になっており、そこに個室から、2人、3人、4人部屋と並んでいます。筆者は、1人部屋の並みですが、入ったところ 15平米はありそうで、大きなダブルベッドを備えた広い部屋であり、大きな窓も気に入りました。

乗船客の出会いの会があり参加してみました。席の近隣同士がたちまち仲良しグループを形成し、話題はどんな部屋で何人で参加しているかということになり、誰言うともなくそれぞれの部屋を見せてもらう「部屋見学会」となりました。

### 相部屋の楽しさと難しさ

中部地方から参加した女性は、窓なしの2人部屋でした。2つのベッドが並んだ、ま、行ってみれば大きめのツインルームの感じであり、中央にバカでかい鏡があります。その時点では、相部屋の方がまだ部屋に来ていないとのことでしたが、どこかの誰が来るかは未定とのこと。

しかし事務局は、年齢がほぼ同じであり、双方の希望なども勘案して相部屋の人を選ぶそうですが、相性がいいかどうかは実際に生活してみないと分からないらしい。相性が悪いと最悪の旅になるそうで、事務局が最も腐心するメンバー選びということでした。

### バルコニーは海と隣接する贅沢でした

2人部屋でもバルコニー付きの部屋に案内されると、広さは変わらないのにバルコニーに出て見ると途方もなく開放的な気分になりました。海と直接ふれ合うことは素晴らしい環境であることを知りました。

3人部屋、4人部屋も見せてもらいましたが、間取りと天井の高さ、他人との間隔などに設計者の工夫が見て取れて、それなりに生活環境としては満足できる間どりになっていました。





### バルコニーに出てみると海風の快適さに驚きました

3人以上の相部屋は、若い人たちが比較的多いと聞きましたが、確かに学生たちの合宿気分を思い出させるグループも見えており、外国人も混じった華やいだ雰囲気でした。若者たちと雑談を交わしましたが、ショックを受けたのは「日本はもうダメです。みんなそう思っています」という言葉です。3人いた女性がみな、そう言っとうなずきます。

そうなったのは、私たち壮年以上の日本人の責任でもあるのです。3人のうち1人は学生、2人はボランティア活動をしているとのこと。再会を約束して別れました。

### 交流会で東京人が少ないのはなぜなのか

乗船客の住所別・地域別で交流する会にも出て見ました。都道府県や地域別に分けての交流ですが、東京からきた人の出席者が少ないことに違和感がありました。全員の参加ではないので、大勢参加しているはずの東京からの人は、こうした交流会は出ないか苦手なのか。大都会人の「疎遠で無関心・無関係」に徹する状況がここにも出ているようにも思いました。



もう一つ意外だったのは、お一人参加者が多いことでした。正式な発表はないのですが、7, 8 割が単独で参加しているようであり、ご夫婦とおぼしきペアは意外と少ない感じでした。

## PEACE BOAT に乗船し世界一周の旅に出る その3

2024/04/19

### 最初の寄港地・深圳(シンセン)で事件勃発

神戸港を出てから 2 日余で中国の深圳に接岸しました。最初の寄港地であり、ここから中国人乗船客が多数、乗ってきます。

深圳は常に、中国近代化のトップ引きとなって発展している大都市で、広東省の省都でもあります。ほぼ 10 年ぶりの訪問なので、都会の様相がどのように変わったか期待していましたが、港の周辺をバスと徒歩で 2 時間ほど回っただけなので深圳の全貌は窺いべくもない短時間でした。



### 深圳の港の一角は観光客で賑わっていました

経済特区で売り出した都市ですが、筆者の専門分野の知的財産施策でも、常に特区扱いで新施策が導入され、たびたび北京の中央政府の先を行く知財推進政策や

助成金制度などを断行し、話題になってきました。往時の深圳発展の出来事を思い出しながらビールを一杯飲み、さて船に帰還する時間になって「事件」が勃発しました。

## 日本の VISA カードは使えない

レストランに入るとき、受付の女性に VISA カードを見せて、これで勘定はできるかと聞いたところ、問題ないという回答。そばにいた男性従業員も、同意の意思表示です。

簡単なおつまみとビールで、こちらはいい気分です。昔、中国ではビールを冷やして飲む習慣がなく、飲むときはあらかじめ冷やしておくように注文したことを思い出しました。ビールを常温で飲むのは旧ソ連のロシアも同じでした。いまは黙っていても、冷えたビールが出てきますが。

さて、船に帰るバスの時刻も迫ってきたところでお勘定となり、カードを挿入して暗証番号を入れたところで拒否されました。何度やっても受け付けない。筆者は、現金ゼロ、クレジットカード一枚だけで下船したのでさあ、困った。中国では、日本のクレカは使えないことが多いとアドバイスを受けてことを軽視していた失敗です。

とっさに北京に駐在している、JST(国立研究開発・科学技術振興機構)の米山春子さんを思い出し、WeChat で連絡するとうまくつながりました。WeChat は、中国独自の SNS です。日本のラインのような存在であり、中国圏に入ったとたん、国家の方針で PEACE BOAT の Wi-Fi は繋がらなくなり、ラインもメールもまったく使えません。命の綱は WeChat だけなのです。筆者は、このサイトができた当時から使っているので、大助かりでした。

「文無し」の事情を米山さんから話すように、レストランの女性にスマホを手渡しました。米山さんが自分のデジタル口座で支払うことを申し出て、なんなくこの事件は解決となりました。



JST 時代、春子さんとは中国総合研究センターで、日中科学技術交流、さくらサイエンスプランなどで日中両国の反日・反中勢力を乗り越えながら交流推進に取り組んだいわば同志です。こういうときこそ、一番頼りにする仲だったのです。地獄に仏とはこのことです。

筆者は飲み逃げ同然で急いで帰りのバスに駆け込みました。その直後、北京にいる米山さんと深圳のレストランが通信のやりとりをし、いとも簡単に勘定が払われたのです。その勘定書きの WeChat 画面をバスの中で見たときは、感動しました。「やったね、中国！」という気分でした。

日本でもこういうことができるのでしょうか。寡聞にして知りませんが、ネット社会、デジタル時代の実用化では、中国の方が日本を超えていったことは 10 年ほど前から知っていました。ああ、中国が先を行くと何度も思ったものです。キャッシュレス時代の先頭を切った国であることは、間違いないことを自分の体験で確認したような気持ちでした。

## PEACE BOAT って何だ

出発前、船に乗る話をすると決まっ聞かれるのが「PEACE BOAT って何だ」という言葉です。ピースボートって聞いたことはあるが、それがどのような組織で運営されているのか。拠点は日本なのか外国なのか、旅行会社なのか NGO なのか。筆者を含め、多くの人が曖昧なままになっています。



船の全景を撮影するのは無理。船尾の方だけ入れました

この機会に急いで調べて、筆者なりに分かりやすく整理してみました。

- イタリアで建造された客船「パシフィック ワールド号」を 41 年前に組織された日本の国際 NGO・PEACE BOAT がチャーターして運営する「船旅で世界の人と人をつなぐ」活動です。
- 船のサイズは、7 万 7400 トン、全長 261m。15 階建てビルを乗せたような巨船で、2か所で数台のエレベーターを動かし、4 層吹き抜けのアトリウム空間は、船内とは思えない豪華な空間です。
- 一流ホテル並みの設備を備えており、教養、娯楽、趣味、スポーツ、音楽など広範囲なプログラムが常時、走っていて乗船客を退屈にさせません。PEACE BOAT スタッフが、すべてサポートしていますが、乗船客が自主的に企画したイベントも目立ちます。
- 船舶を利用して世界中を航海し、異なる文化や国々の人々との交流を促進します。参加者は、船上でのワークショップやディスカッション、文化交流イベントなどを通じて、相互理解や国際協力の重要性を学びます。
- 1983 年の出航から今回の 117 回航海まで延べ 8 万人の人々が世界中の 250 を超える港に停泊して大自然や世界遺産を見学、それぞれの国や地域の人々と交流してきました。世界の平和、人権、地域紛争、核や環境問題と真摯に向き合うリベラルな姿勢が強く、国連の特別協議資格を持っています。
- 今回の Voyage117 の乗船状況は、大まかにまとめると次の通りです。

20 か国・地域以上にまたがる乗客 1300 人とスタッフ 600 人が乗船。

乗客の男女比は 7 対 3 で女性優位。

乗客の年齢別構成は以下の通りです。

30 歳以下 18%

31-60 歳 10%

61-79 歳 63%

80 歳以上 9%

最高齢は 95 歳で 2 人

平均年齢は、筆者の想像では 70 歳代前半かなと思います。

### 自由な雰囲気健康談する

乗客同士は、非常にフランクな付き合いです。レストランに行けば、案内人が相席させて客同士のコミュニケーションが自然にとれるように配慮しています。名刺交換などの挨拶もなく、自己紹介を印刷した名刺や紙を出す人もいますが、それはまれです。筆者も知人のアドバイスで自己紹介の名刺を PC で作成して持っていますが、それを出す機会はほとんどありません。

口火となる話題は、出てくる料理や食べ物から始まり、決まって健康の話、病気の話へと発展します。年配者が多いので自然そういう流れになりますが、面白いのは健康を自慢する人はおらず、大体はいかに健康維持が難しいかを語って聞かせ、相づちをうち、距離感がなくなり、それから話題は世の中の出来事へと発散していきます。

自分の経歴や体験を話す人はまれですが、話せば決まって興味があり引き込まれていく内容なので、座は一気にまとまり散会するときには 10 年の知己になるという雰囲気です。

社会的地位や学歴や職歴などとは無関係で、お互いにフラットな立場で自由に発言できる不思議な空間を作っています。



さらば深圳



船の最後尾から深圳に別れを告げました

ここまで書いたところで船は深圳を離れて一路、シンガポールへと向かいました。

## PEACE BOAT で世界一周の旅—その 4

2024/04/21

### 船長主催の歓迎会

深圳で乗船した中国の人たちを迎えて、1300 人の乗客が一通り揃い、船長が主催するウエルカムセレモニーが船のど真ん中の 7 階ふき抜けの大ホールで開催されました。船上とは思えない規模と豪華さ、歓待するスタッフの立ち居振る舞いもそれなりに洗練されています。船長からのウエルカム・ドリンクのシャンペーンが配布され、式典が始まりました。



ウエルカムセレモニーは吹き抜け大ホールで華やかに展開されました

前日の船内新聞で、「思い思いのおしゃれをして」参加してくださいという呼び込みがあり、会場に行ってみると和洋それぞれに着飾った女性陣の華やかに圧倒されました。男性陣もそれなりに「趣向」をこらしており、筆者はタキシードに帽子をつけて出席しました。社交ダンスを 20 年間習ってきたので、燕尾服もタキシード



もそれなりに着こなしてきたつもりですが、久しぶりのタキシードを身につけるとビシッと姿勢がよくなるのがいいところです。



映画「風とともに去りぬ」のヒーロー、Rhett Butler を気取ったつもりでした



式典は日・中・英の3か国語の通訳が入るのですが、日本人が大多数、そこへ互いに顔では見分けがつかない中国、台湾、韓国からの乗船客が混じり、あちこちに西洋人の顔立ちの人が散見しています。互いに運命共同体の船に乗った family ですから、言葉は交わさなくても、そこはかたなく同胞・仲間・同志・戦友・・・という意識が芽生えてくるから不思議です。

歓迎のバンド演奏やらスピーチと花束贈呈など一通りの式典が終了すると、ダンスパーティが始まりました。

### 式典後はダンスパーティで爆発

筆者が社交ダンスを始めたきっかけは、友人の整形外科医の助言からでした。膝関節から下肢全体に老化現象が見え、あぐらもかけない硬直化が顕著になって来たとき、脚を使うダンスがいいと薦められたのです。最初は、東京・日比谷の東宝ダンスホールで習っていましたが、その教師の紹介で、江東区門前仲町の毛塚ダンスアートアカデミーの会員となり、本格的に習い始めました。

社交ダンスはタンゴ、ワルツ、スローステップ、ルンバ、チャチャチャなど種目がいろいろありますが、どれひとつとっても際限なく奥が深いものです。習い始めて徐々にこの「道楽」の深淵をのぞき見ては、ため息をついてきたものです。

船上での記念ダンスパーティは、端的に言うと「イモ洗い」の様相でした。ともかくも船でダンスを踊ってみたいという気持ちがあるためでしょうか。華やいだ会話と笑いが会場全体を盛り上げ、ま、言ってみれば高齢者の合コンでしょうか。

タキシードで決めてきたのに、完全に浮いています。ステップなどというものではなく、足踏みしては誰やらの足を踏んだり蹴ったりの有様ですが、それがまた途方もなく楽しく愉快ですからどのお顔も幼児の時代に戻っていました。

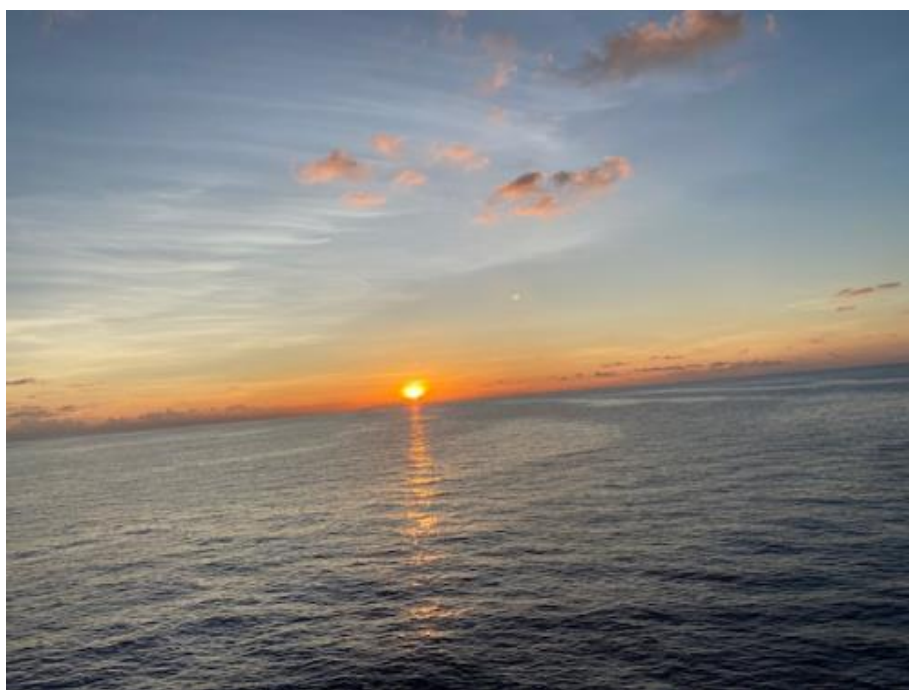


## 日本と遮断された閉空間を楽しむ

新聞、テレビなど情報と手段がないので、日本国内と国際的な動きは、この1週間、完全に遮断されています。スマホとPCを持っているので、Wi-Fiにつないでネット情報は国内と同じ環境で見聞できますが、大きな制約がありました。Wi-Fi接続は船を通じてやるので、その料金がバカにならない。乗った当初は、誰もがWi-Fi接続を求めてサポートデスクに殺到しましたが、つないでみると国内と同じ環境になりますが料金が高い。

料金はスマホやPCに流通するデータ量に比例してかかりますが、YouTuberなどで映画を見ればあっという間に数千円になるという噂を聞いて、みな尻込みを始めました。きめ細かく使用するたびにセットしたり切ったりすれば節約できますが、これが面倒だから時間とともにスマホ・PCから離れて行ってしまおう。

こうなると、完全自由時間。しかも3食、昼寝付きでタダ。実際はそれなりの料金を払っているのを忘れて天国気分。こうして船旅は、一週間が過ぎていきました。



毎日、沈み行く太陽をデッキから眺めています

## PEACE BOAT で世界一周の旅—その 5

2024/04/22

### 船上で「学校給食世界一」を講演する

PEACE BOAT では、毎日、多数のイベントが展開されています。各種スポーツ、趣味・道楽、映画、教養、音楽、語学、料理その他諸々のテーマです。朝 7 時から夜 10 時ころまで切れ目なく、船のどこかで多数のイベントが同時進行で走っています。

その中でも異彩を放っているのが自主企画です。これは乗船者が企画立案し、PEACE BOAT 担当者の OK をとり、会場を確保し、船内新聞で告知してもらって参加者を集めるもので、前日の夜に部屋に配布されて来る新聞案内を見て、翌日、それぞれ興味あることに行動を起こすというものです。



筆者はこの機会に、日本の学校給食は世界一のソフトパワーであることを知ってもらい、食育推進の理解度を高める活動を船の上でやってみることに挑戦しました。

と言うのも、船の乗客はそれなりに社会的活動をやってきた方であり、年配者が多いので今の学校給食を知ってもらうことで社会的な認知度が広がるだろうという思惑です。学校給食甲子園を知ってもらい、主催者の認定 NPO 法人 21 世紀構想研究会の活動にも触れたいと思ったのです。

フリースペースとして一番広い場所を確保しましたが、果たしてどれくらい聴者が来るかまったく未知数でしたが、フタを開けてみれば約 100 人を超える方々が出席したので、びっくりしました。

日本人で学校給食を体験しなかった人はいません。年代によって献立の中身が違っているだけで、脱脂粉乳、コッパンから始まって、今風の料理に至るまで驚くほど進化してきました。その有様と学校給食の重要性をまず理解してもらうために、2 枚のスライドをお見せすると、関心は一気に高まりました。

### ご存知ですか？ 日本の学校給食は世界一

学校栄養士の数	1万2100人(栄養教諭55%、学校栄養職員45%)
質の高い調理員	4万5476人(うち54%が常勤勤務)
完全給食の実施率	小学校・98.6% 中学校・83.9%
学校給食の実施形態	委託給食51% 単独校の調理49%
給食費(月額)	小学生・約4千500円 中学生約6千円
学校給食の摂取基準	世界にない栄養素(タンパク質、脂肪、ビタミン、目ねらるなど)のきめ細かい摂取基準
学校給食調理場の衛生管理	世界で一番厳しい調理場の衛生管理
食育という教育施策	世界に類がない食文化教育

出典：文部科学省

学校給食の現状を見出しだけで紹介し、続いて学校給食摂取基準で示されている栄養管理について紹介しました。

今の子どもたちは、カロリー、タンパク質、脂肪、塩分を摂り過ぎています。家庭料理と外食が摂り過ぎの原因であり、それがやがて生活習慣病に結びついていきます。子どもが摂りすぎと言うことは大人も同じだということになります。

その一方で各種ミネラル、ビタミン、食物繊維などは不足しがちになっています。

**献立は栄養士の資格を持っている人だけ  
家庭・外食で採りすぎる栄養素を学校給食では抑える。  
不足しがちの栄養素を学校給食で補充している。  
この重要な役割を国民のほとんどが知らない。**

学校給食の摂取基準

	学校給食の基準	備考
エネルギー	33%	とり過ぎない。肥満児予防
タンパク質	12～20%に抑える	家庭ではとり過ぎ
脂肪分	25～30%に抑える	とり過ぎない。肥満児予防
塩分	33%未満	とり過ぎない。肥満児予防
カルシウム	50%に補充	家庭では不足しがち
鉄	摂取の確保に努める	家庭では不足しがち
ビタミンB1	40%に補充	家庭では不足しがち
ビタミンB2	40%に補充	家庭では不足しがち
ビタミンA	50%に補充	家庭では不足しがち
マグネシウム	50%に補充	家庭では不足しがち
食物繊維	33%以上補充	排便実態に合わせて調整

学校給食では、摂りすぎになる栄養素を抑え、不足しがちの栄養素を補充する献立を作っています。栄養教諭がその基準を守るために必死になって献立を作成し、しかも美味しいものを出さないと子どもたちに食べてもらえない。加えて最近の物価高で、食材は軒並み値段が上がり、四苦八苦して予算内で献立を作っているのです。

食べるものに事欠いた戦後間もない時代は、コッペパンに脱脂粉乳、それに簡単なおかずだけという献立であり、船上客の大方がこの時代でした。それから時代を追って、日本の経済発展と歩調を合わせて学校給食の献立も激変していきます。

やがて飽食の時代になり、家庭環境も両親が働くようになって家族団らんの食卓は徐々に姿を消して行きます。子どもの睡眠不足と朝食抜きが問題点として浮上り、ファストフードの普及と子どもの健康が語られる時代になってきました。

そうした時代背景の中でも学校給食の栄養管理は徹底しており、ヘルシーな食事は肥満児出現で世界最低の実績を誇り、諸外国からは「日本の長寿国家は学校給食に原点あり」とまで、言われるようになってきました。

2005年に制定された食育基本法と栄養教諭制度のスタートで、食と健康を学び世界の食文化を知り、健康に生きていく基本行動と知識を身につける教育がいま、確かに根付いてきました。その実情を知ることで人それぞれが健康を考え、100歳時代に近づいていく状況を改めて認識しましょうというのがこの講演の狙いでもありました。

最後に、こんなに栄養管理ができた美味しい給食になった最大の功績者は誰か、質問しました。

学校給食をここまで進化させた最大の功労者は誰でしょうか？

1	栄養教諭
2	調理員
3	児童・生徒
4	生産者
5	保護者
6	一般教員
7	自治体
8	その他



正解は3の児童・生徒です。子どもたちはまずければ食べません。学校給食での食べ残しは献立を作り調理している栄養教諭と調理員の最大の課題になっています。美味しく食べて完食すれば、調理場だけでなく保護者も生産者も学校関係者はみな喜び、国民全体の健康保持にもつながっています。

最後の問いかけの内容と正解は、聴者の皆さんにも意外感があったようで、ここで学校給食の理解度がさらに高まったように感じました。

## PEACE BOAT で世界一周の旅ーその 6

2024/04/24

### 初めて知ったシンガポール歴史の真実

4月22日に筆者は初めてシンガポールを訪問しました。これまで何回も行くチャンスがあったのに、この小さな島国に行くことはできなかったのも、いわば憧れの地でした。シンガポールに特に興味があったのは、教育・研究施策がしっかりしており、科学技術の研究開発でも常に世界の上位にランクされている優れた施策を展開していることにありました。大学ランキングでも、常に日本の大学の上を行っています。



それともう一つ興味の対象は、太平洋戦争中、マレー沖で日本陸・海軍の攻撃で撃沈されたイギリスの戦艦プリンスオブ・ウェールズと巡洋艦レパルスの歴史に触れたいという思いもありました。2隻の戦艦撃沈の報告を受けたチャーチル首相が、言葉を失ったと言われていました。シンガポールは、大英帝国にとって難攻不落と言われたアジアの一大拠点だったのです。それを10日あまりで日本軍に降伏し、チャーチルはここでも「英国軍の地上最大の降伏だ」と語ったということです。

船から上陸・訪問する前日、船内で「昭南島～日本軍占領下シンガポール」というタイトルで野平晋作さんの講演会がありました。船の中では最も大きな座席数を持つプリンセスシアターでの開催ですが、筆者はこのとき、別のセッションに出ている都合で、最後の方だけに参加しましたが、非常にためになる講演でした。

会場は満席の盛況であり、最後に日本が未だにシンガポールに謝罪していないのではないかという意見を巡って、会場の人たちが激しく討論している場面に出くわしました。

昭南島とは、シンガポールをイギリスの占領・統治から奪い取った日本軍が命名して使ったこの地の名称です。シンガポールの歴史をほとんど知らなかった筆者は、イギリス統治から日本統治へ、そして戦争に負けて再びイギリス統治に至った歴史的な経過と、日本軍の侵攻時に行った現地の抗日義勇軍に対する攻撃と、民間人も巻き込んだ抗日華僑殲滅作戦の虐殺行為などを知って驚きました。

### 先進的で豊かな国になったシンガポール

シンガポールに足を踏み入れて見ると、この国の先進的な豊かさを肌で感じました。建物が瀟洒であり、働く人々の仕草と表情が垢抜けしていました。店頭に並ぶ商品の値段を見ると、日本より物価高かなと思いましたが、デフレ・円安で、もがいている日本の現状がこの数字でも分かりました。

ただ、街を走っている車のメーカーは、日本車が多く目につき、続いてヨーロッパ車、そして韓国車と続いていました。



## 世界の遺産である植物園



シンガポールの世界的に有名な植物園は、管理が行き届いた素晴らしい規模と展示内容でした。世界の各地域の植物コレクションが約 6 万点展示されており、最大の観光スポットです。本来なら 1 日ばかりで見学する場所でしょうが、こちらは 1 時間足らずの駆け足で回る「爆走見物」でした。

川船に乗船して川を上下するクルーズに乘りました。川風が心地よく、両岸に並ぶ新旧バランスよい景観もいい感じでした。疲れた足を休ませるためにお茶をしているとき、何の脈絡もなく、太平洋戦争のシンガポール戦を思い出していました。

筆者の知識は若いころに読んだ記録、伝記ものなどに限られていますが、日本が太平洋戦争に負けたきっかけは、シンガポール戦の勝利と戦艦プリンスオブ・ウエールズ、レパルスの撃沈勝利にあったという皮肉な史実を思い出しました。シンガポールで勝ったことが、あろうことか太平洋戦争で負けた原因になったのです。

戦艦撃沈の勝利では、日本海軍の海上からの戦闘機爆撃が有効だったことを示したもので、アメリカはこの戦況にいち早く目をつけました。戦艦や空母を撃沈するのは戦闘機爆撃が有効であると確信し、ミッドウエー海戦でこれを実行して大戦果をあげたということです。

それから戦況は急激にアメリカ優位に傾き、日本の敗戦に至ったということでした。日本は戦艦大和に代表されるように巨艦主義にこだわり、近代戦への研究が足りなかったのです。科学技術で劣等国家だった日本が、今なお政治の世界では科学音痴が続いており、国家としての限界を見るような気持ちです。

旅行で訪問した国に足を踏み入れると、過去の史実を思い出してしばし感慨にふけると言うことは誰にでもあることなのではないでしょうか。船で一緒になった人々と会話をするうちさまざまなことを聞いて、何も知らないできた自分に気がついて驚くことがあります。しかしそんなことは誰にも言えず、自分だけにしまい込んで船に戻ってました。

## PEACE BOAT で世界一周の旅—その 7

2024/04/25

### オプションツアーの選択

今回の PEACE BOAT117 は、105 日間に 21 か所の港に停泊します。すでに中国の深圳、シンガポール、マレーシアのポートクランの 3 か所に停泊し、乗船客の多くが下船して見物に出かけました。PEACE BOAT では、乗船客の見物・見学の要望に応じて、多くのオプションツアーを用意していますが、そのコースが 1 つの停泊地で 10 個以上あることもあり、選択に迷ってしまいます。

マレーシアのポートクランに停泊したとき、同国の首都、クアラルンプールにバスで往復するツアーもありましたが、筆者は急きょこのツアーをキャンセルして、港に隣

接するポートクランに行くことにしました。首都の様相は写真などで見ると、近代的なビルが林立し、いかにも国際都市の景観ですが、それよりも港に近い地区にあるインド系住民が多いポートクランという観光地域を見学することにしました。

オプションツアーの直前のキャンセルは、50%の払い戻しになりますが、一生に一度しか来ない都市や地域を見るためには仕方ない選択です。キャンセルして、ポートクラン地域を往復するバスコースに切り替えました。これが筆者の思惑取りの見学になりました。

### インド系住民の作った観光地域

巨大なモスクに隣接する駐車道路でバスを降りて見学に出かけました。大きな通りの両側の長い長いアーケードにびっしりと商店が並んでいます。住民はインド系の人々であることは一目で分かります。

店舗の入り口付近には申し合わせたように店の男女従業員が並んでいますが、特段、客寄せする様子はなく、目が合えば軽く会釈する程度です。客寄せに熱心な他の国とは大違いです。いったいこれで商売が成り立つのだろうかと心配になるほどです。

商店街の半分くらいが女性の衣料品店であり、後の半分は、食料品から雑貨類など多様な品揃えです。

女性専用の衣料品店は、どうみても観光客目当てのお土産屋ですが、どの店もほぼ同じような構えで、同じような商品を陳列しています。これでは、どの店で買い物をするのも同じだなという印象でした。

しかし女性の観光客は次々とハシゴをしながら店に入って物色する光景を見ると、女性が見た目では違った陳列商品になっているのでしょうか。男性専用の店を一軒、発見しましたが、外から見ただけで民族衣装系統の服飾類が多数飾ってあり、見るだけで結構という感じでした。



### 食品売り場には、多彩な調味料と香辛料が並んでいました

歩き疲れてビールでも一杯と思って気がつきました。回教徒の国なのでアルコール類は販売していません。料理は中華系が多いように見えたが、陳列棚を見るとどれもこれも食欲がわいてこない。結局、大きなスーパーに入って、日本などから輸入した加工食品を買い求め、バスの中で食べることにしました。

この地域は、港町で栄えた観光地域のようなのですが、道路、建築物などの社会インフラは貧困であり、30年前の中国の地方都市よりも遅れているように感じました。どの商店もクレジットカードは使えないキャッシュオンリーであり、大きなスーパーだけがカードを使えました。



外は気温 30 度内外、湿度も高く蒸し暑いのに船に帰るとクーラーが効きすぎて小寒い。そこで婦人用のショールを防寒用にとって羽織ることにしました。これで 1000 円ほどの買い物でした。

### 隣国ブルネイとの違いにびっくり

筆者は、日本のバイオ関係の企業が進出した隣国のブルネイに行ったことがあります。ブルネイはマレー系の人たちで人口 41 万人の小さな国ですが、石油・天然ガス資源に恵まれた豊かな国になっています。ホテルや商店の従業員の服装やたたずまいは、先進国とほぼ変わらず、垢抜けした人々でした。

この国も厳しい禁酒国であり、アルコール飲料はごく限られたレストラン、しかも夜だけしか飲めません。国民は豊かな生活をしており、現地に進出している日本の商社や企業の人たちは「国が豊かなので国民は働かない。この国の発展は期待できない」とも語っていました。



石油資源が枯渇した時に備えて、政府は次世代産業育成のために外国産業の導入と育成に力を入れているということですが、肝心の国民が働かないというのですから、発展は無理という見方も当たっているのでしょう。

隣国同士なのにかくも違う文化が、それぞれの伝統と民族の中に形成され、存在していることを見て、世界の広さを感じた時間でした。

## PEACE BOAT で世界一周の旅ーその 8

2024/04/27

### インド洋の日の出

船の朝は早い。午前 6 時からエアロビクスが始まり、アスレチックジムがオープンして早くも、ランニングマシンに精を出している人を見かけます。

この日、4 月 27 日の日の出は 6 時 23 分です。12 階のプールを取り巻くデッキには大勢の乗船客が集まってきます。体操の前に日の出を拝み、この日の一日が始まる気分になります。



## 船上では毎日、企画・イベントが満載

1300 人の乗船客に退屈感を与えないために、多くの企画、イベント、カルチャー・スクールが朝 6 時から夜 11 時まで、10 か所の会場で進行していきます。最も大きな劇場型のプリンセスシアターでは、午前と午後に映画が上映されており、この日は「日本人の忘れ物 フィリピン中国の残留邦人」、「ナイル殺人事件」が上映され、映画の合間に高橋和夫さんの「カザと紅海」という講演会がありました。



日の出とともに始まるラジオ体操

## 船上では毎日、企画・イベントが満載

1300 人の乗船客に退屈感を与えないために、多くの企画、イベント、カルチャー・スクールが朝 6 時から夜 11 時まで、10 か所の会場で進行していきます。最も大きな劇場型のプリンセスシアターでは、午前と午後に映画が上映されており、この日は「日本人の忘れ物 フィリピン中国の残留邦人」、「ナイル殺人事件」が上映され、映画の合間に高橋和夫さんの「カザと紅海」という講演会がありました。





中央の空間を取り巻くようにヨガ教室が行われますが、連日、大盛況です

人の集まり具合を見ていると、ダンス教室はほぼ確実に盛況です。社交ダンスを始め、サルサ、ベリーダンスなど若い世代から年配者まで誰もが楽しめるようなプログラムになっているようです。船に乗っていると運動不足になりがちなので、体を動かすプログラムがそれなりに用意され、参加者もまた集まってくるという感じです。

乗船者が自主的に企画して呼びかける企画ミーティングや各種の教室も大きなスペースを適当に区切ってそれぞれが開催しているので、筆者もいくつかに参加して見ました。これまでの寄港地での旅の思い出を語り合うサークルでは、深圳でカードが使えず食い逃げ寸前で中国の友人に助けられた失敗談を披露してうけました。

## 船内のバス・トイレ事情

船の中で3ヶ月も過ごすので、乗船する前に多くの人から日常生活の有様を聞かれましたが、体験前ですから答えようもありませんでした。生活する部屋もビジネスホテル並みということだけで乗ってみるまでは一抹の不安感がありました。



狭い空間ですが、特段の不都合もなく使っています



部屋に案内されてみると、15平米ほどの部屋に大きな窓付き、ダブルベッド備えの部屋で、洗面台付近のアメニティは簡素で何もありません。バス・トイレもそれな

りのものです。ただバスタブではなくシャワーであり、狭い空間ながらお湯の温度は十分であり水勢もかなりのものです。就寝前や起床直後にシャワーを使う習慣はなかったのですが、これに慣れてしまうとお風呂は忘れていきました。

トイレは事後洗浄(いわゆるウォッシュレット)ではない昔ながらの様式です。30年近く使い慣れてきた洗浄トイレでない、昔ながらの自分で始末する様式に一抹の不安がありました。この解決法をほどなく発見して無事、乗り越えました。

子ども時代から慣れていたトイレの後始末、トイレットペーパーで始末するあの様式からおさらばして洗浄トイレに慣れてしまったので、昔を思い出して「挑戦」しますが、これが不安感一杯でなかなかうまくいかない。終わった後、シャワーを使って念入りに洗うよりない。しかし毎回、こんなことをやるのも面倒なのです。

ところが、レストランやエレベーター付近には必ず、誰でも使えるトイレがあります。点検してみるとここのトイレは洗浄式になっています。どう見ても日本のメーカー品と同じに見えるので不安はない。テストの状況も OK となり、それからは毎日こちらに出張して用を済ましていました。誰も使っていないのだろうかと思うほど、いつでも空いていました。



豪華なベッドと大きな窓は、ビジネスホテル以上の部屋でした

## お洗濯は楽ちん外注

国内での出張時の洗濯物は、お風呂に浸かったときに簡単に水洗いしてハンガーに下げる。これがいつもの筆者のやり方でした。船でもそうなるだろうと想像してきましたが、ここでは「ランドリーバッグ」なるものがあり、何でもかんでもこの袋に詰めて出すと、1回、800円で済みます。

洗濯に出した個数ではなく、洗濯物の体積になるので、袋にぎゅうぎゅう詰めにして出しても800円。詰め込めば、それだけ割り得になるという訳です。

## PEACE BOAT で世界一周の旅—その9

2024/04/29

### 船内で PCR 陽性者が出る

レストランは、5階、6階、14階とあり、5階が和食系統、6階が洋食風、14階はいわゆるバイキング方式で好きな料理をトレイに載せて思い思いのテーブルで食べています。

5階と6階は、正式なレストランのしきたりがあり、男性なら基本的に襟付きシャツ、スーツ着用が好ましいとされています。Tシャツ、サンダルは御法度であるが、まあ普通の服装なら文句は言われない。

14階のbuffetは、どんな服装でもOKのようで、若者たちは自由な服装で歓談しています。知らない同士で同じテーブルに着くと、自然と食べながらの雑談となります。口火は「どちらから参加ですか」となる。住んでいる場所や都市を聞いてくるのだが、意外と東京からと言う人には出会わない。

そんな雑談のおりに「船内でコロナが出たらしい」という話が出てきました。コロナと言っても変異株なので、あのパンデミック騒動となったコロナウイルスではなく、

風邪症状で収まるものでしょう。PCR 検査で陽性と出た人のようですが、一応、隔離したようだともいう。

乗員スタッフも入れると2000人ほどの人が、巨大なビル構造の中にいるので、言ってみれば巨大な培養器の中にいるようなものだろう。赤道を通過したあたりだから海上の気温も湿度も高い。船内はエアコンで快適な環境になっているが、一日に一回くらい、海風を全艦に入れて中の空気を全とっかえという訳にはいかないのだろうか。乗船客はいたってのんきな会話をしており、コロナウイルスの威力もほぼなくなってきたようである。



船はいまセーシェル島に向かってひたすらインド洋を航海しています。寄港地がな

いから毎日、見渡す限り海を見て過ごすよりない。マレーシアのポートクランを出てから1週間、ひたすら海上を移動する。地球の天体位置も海図も満足になかった大航海時代の船乗りたちは、どんな気持ちで毎日を過ごしたのだろうか。

そんなことを考えながら、屋上デッキの長椅子に身を伸ばしてぼんやりしているとき、誰かが「あれは何だ！」を叫んだので皆が一斉にユビ指す方向を見ると、巨大な虹の柱がインド洋に架かっている。スマホ撮影が始まり、ひとしきり自然の雄大さをこの目で見て誰もが満足した様子でした。

## PEACE BOATで世界一周の旅—その10

2024/05/02

### 世界で最も美しい海のセーシェルに寄港

インド洋をノンストップで5日間も航海していると、そろそろ陸が恋しくなります。海が時化になると巨船といえども揺れが半端ではありません。船内の廊下を左右によろめきながら、壁伝いの格好で歩いています。

そんなとき、水平線の彼方にかすかな島影が見え始めたときには、嬉しくなりました。徐々に近づいてきた島の様子を見ながら、手元に用意していたセーシエルの歴史と自然に眼を通し始めました。







ところがこの頃から扁桃腺に炎症を起こし始め、熱はないものの痰が喉に絡み始め、咳もよく出てきます。船内の多くの方が似たような症状をしており、マスク姿が急に増え始めました。筆者も室外に出るときはマスク着用ですが、気分は特段、悪くありません。船内の診療所は異変を訴える乗船客で満杯だという噂も聞きました。

### 風光明媚とはこのことか

セーシェルに接岸を始めると、海岸線の風景が徐々に手の届くところまで迫ってきました。いかにも南洋の植物相らしい、うっそうとした緑が豊かに茂っており、大きな風車はその光景を引き立てるように回っています。甲板で絵はがきになりそうな風景を見ながら、接舷の様子を見ていました。



この島を取り巻く深いブルーの海は、洋上から飽きるほど見てきましたが、島を縁取る緑の茂みと美しい海岸線は、数千万年前からの固有種で独自の植物相をつくってきたとのこと。セーシェル政府が特別に保護していると言うだけあって情緒的

光景として見ていました。ヨーロッパからの観光客が多いというセーシェルを引き立てていることが分かります。

### 喉の異変でツアーをキャンセルして散策

上陸して一日観光で植物園などを見学する、バスツアーに申し込んでいました。しかし翌日には大事な船内講演があるので、症状を悪化させてはと考えた末に、断腸の思いでツアーをキャンセルし自室で静養することにしました。

そうは言うものの、接舷して次々と上陸した乗船客がツアーに出て行く姿を甲板から見ているうちたまらなくなり、上陸して港の周辺を散策することにしました。シダ類の目立つ植物景観と南洋の鳥たちが、セーシェルにいることを印象づけてくれます。ああ、巨大な亀の公園に行きたかったなあ、などと思いながら散策していましたが、それにしても人の姿が少ない。商店やレストランは軒並みクローズです。

思わず、今日は日曜日かなとカレンダーを確認したほどですが、メーデーの休みと分かり、ツアーの人々はどうなったかと思いながら、ただ一軒オープンしていたスーパーで軽食を買い込んで船室に戻りました。

### 日本人はやっぱりお風呂です

汗だくになって船の戻り、思いついてサウナに行くことにしました。最上階の下の12階にサウナがあり、隣接してジャグジーと小型の円形プールがあります。プールは別に長さ15メートルほどのコースプールがあり、まだ未体験ですがそろそろ行ってみたいと思っていました。



上が小型円形プール。下がジャグジープールで、水温 28 度から 30 度くらい。ジャグジーは水温 38 度ほどで、ぬるめの風呂程度。いつまでも入っていたくなるような快適さでした。

サウナをたっぷり使って汗を流し、誰もいないジャグジーで写真だけ撮って帰りました。



## PEACE BOAT で世界一周の旅—その 11

2024/05/03



### イベルメクチンの真実を知らない人が多い

2015 年、大村智先生がノーベル生理学・医学賞を授与されたイベルメクチンについて、食事の際にテーブルが一緒になった方々に、それとなく聴いてみました。半分以上の方が「知らない」という反応でした。これにはびっくりしました。コロナ感染症がパンデミックに指定され世界が恐怖におののいていたころ、インドなど世界の多くの国々でイベルメクチンを投与して一時のピンチを切り抜けたなどのニュースを知っている方は、1 人もいませんでした。

## イベルメクチンとは何か

1975年 大村智博士が、静岡県川奈ゴルフ場近くの土壌の中から発見

世界中でこの場所にしかない微生物

米国・メルク社と共同で1981年、動物薬として開発

- ・フィラリア症、寄生虫症、動物の皮膚病など
- ・馬や牛のお腹にいる線虫防除



ダニ退治



## 2015年 ノーベル生理学医学賞受賞

### ノーベル賞証書とメダル





## イベルメクチンのコロナへの適応外

厚労省は、早い段階からイベルメクチンは、コロナに対して適応外で投与することを認めていました。世界各国で効いている証拠を重視したからです。副作用もほとんど報告がない。臨床試験はどの国でもやっていませんが、その時間がなかったから、緊急的に使ったものでした。

### イベルメクチンはコロナに効くという発表 試験管レベルから一挙に臨床へ

#### コロナが世界中に広がり始めたころ

・オーストラリア・メルボルンのモナッシュ大学の研究チーム

「イベルメクチン」が、新型コロナウイルスの抑制効果ありと発表

薬もない、座して死を待つだけ。それならイベルメクチンを投与してみよう。

主として途上国で始まる。

たちまち論文が80報出てくる。

7

## 臨床試験と適応外使用

治療薬として認められる臨床試験に合格とは

イベルメクチンを投与したグループ

イベルメクチンを投与しなかったグループ

2つのグループに差があるかどうかを科学的に調べる。

投与したグループに有意に効いていれば、薬剤として認める。

副作用の状態も調べ、最短でも3年はかかる。

### 適応外とは

すでにイベルメクチンを抗寄生虫の薬剤として求めているが、コロナは対象薬剤となっていない。

しかし、「今回に限り特別にコロナの薬剤として認める。ただし医師と患者が同意した場合で、副作用が出ても、国は補償しない。厚労省は早い段階で適応外と承認した。」

9



インドでは、連日、感染者と死亡者が爆発的に広がっていました。治療薬も予防薬もない。治療装置として人工心肺装置(ECMO)がありますが、これはほとんどの病院にない。コロナに感染して重症化していくことは、座して死を待つようなものだったのです。



途上国など多くの国で臨床治療にイベルメクチンを投与して改善したり、予防に有効だったという論文が多数でていたころです。国はイベルメクチンを治療薬として認めていないが、各国の医師たちはそれを破って投与を始めたのです。

## アメリカの医師団体が イベルメクチンは有効と発信

アメリカの呼吸器疾患などを専門にする医師団体が、イベルメクチンはコロナに有効としてwebサイトを設置

### FLCCC (Front Line COVID-19 Critical Care Alliance) 議会でも証言

世界中のデータを集め、イベルメクチン投与方法、コロナを巡る科学的データも次々と公開

民間ジャーナル「トライアルサイト」も活動

11

イベルメクチンがコロナ予防・治療に効果があることをアメリカの臨床医たちのグループ(FLCCC)がネットで発信し、投与の仕方まで公表しました。こうして世界中でイベルメクチンがコロナ予防・治療、後遺症対応策に使われるようになったのです。

## イベルメクチンを投与されてきた国と されなかった国の比較

イベルメクチンを住民に投与してきた国(32カ国)の  
コロナ感染症結果 (人口は国連人口基金)

	感染者数		死者数	
	累計	10万人当り	累計	10万人当り
32か国総人口				
9億5300万人	128万人	134.4人	2万1259人	2.2人

イベルメクチンを投与していない国(22カ国)

	感染者数		死者数	
	累計	10万人当り	累計	10万人当り
22か国総人口				
3億5,800万人	340万3,086人	950.6人	10万4,826人	29.3人

(2021年5月16日現在、いずれもWHOの統計から算出)

## 世界の動きを知らない日本人

こうした世界の動きと日本の対応については、船に乗っている方々にそれとなく聞いても、ほぼ誰も知りません。そこで筆者は、日本でイベルメクチンのコロナ予防・治療に使われなかった実態を、事実だけ示して話をしました。50人ほどの方が会場に来てくれましたが、1時間20分の長時間を聞いていただき、終わった後も多くの人に囲まれて、質疑応答を行い、そのままランチへと流れ込んで行きました。

### 日本はどうだったのか

日本は、イベルメクチンはすでに疥癬症の治療薬。  
今回は特別に適応外としてコロナの治療薬と認め、保険対象とする

ただし、医師と患者が同意した場合のみ。副作用は双方で解決する。国は関与しない。全国の多くの勇気ある医師がイベルメクチンを処方した。

国も衆院予算委員会で首相、厚労大臣が「適応外として使用OK。イベルメクチンを服用して自宅で静養する方法もある」と答弁。



21

## 講演をした本当の狙いは通じた

イベルメクチンのコロナ予防・治療について、世界で展開された事実と日本政府と厚労省がとってきた対応策について事実だけを講演で話をしました。聴者の皆さんは、ほぼ何も知らなかったことに大変びっくりされており、日本政府が国会で答弁していた内容も、単なるポーズであり、実際には何も行動を起こすことがなかったことにもびっくりされていました。

筆者の講演の狙いは、こうしたことを暴露するためではなく、過去の事実を総括して歴史的な事実を検証することをしなければ、史実は曖昧になり責任は誰もとらない国のままになっていくことを、みんなで考えるべきという課題を提起することでした。

講演の締めくくりでもこれを強調し、公文書管理のずさんさが行政の責任の所在を曖昧にし、進歩のない国の業態がいつまでも続いていくことを強調しました。これにも講演終了後にきちんと受け止めていただいた方々があり、是非、次のテーマを聴きたいという希望までいただきました。

## イベルメクチンの未来

イベルメクチンの全貌はまだ分かっていない。

- ・コロナ感染者の副作用改善に役立っている
- ・抗がん剤開発に応用されている

アジュバント(Adjuvant)効果の仮説

薬物の効果を高めたり補助する目的で併用される物質・成分。

- ・ノーベル業績の先に新たなノーベル賞がある

イベルメクチンとコロナについての世界的な総括は、まだ終了していません。この総括研究では、イベルメクチンを発見した日本が最も進んでいる国の一つであり、発見者の大村智先生とその共同研究者らの業績は、国際的にも高く評価されています。



帰国したらイベルメクチンについての総括討論を、認定 NPO 法人 21 世紀構想研究会でもしななければならないと強く思いました。

## PEACE BOAT で世界一周の旅—その 12

2024/05/04

### 囲碁・将棋大会への参加

日本人の娯楽の中でも古くから伝統を引き継ぐ囲碁・将棋ですが、船内でも娯楽室に碁盤・将棋盤が並んでおり、いつでも相手さえいれば楽しめます。隣接して麻雀卓も 9 個も並んでいます。

5 月 3 日の憲法記念日には、船内の囲碁・将棋大会が開催され、そこに参加しました。筆者はどちらもたしなみませんが、この数十年、どちらもやったことがありません。多少、腕に自信のある将棋の方に参加することにしました。







### 将棋大会に参加してきた 6 人の女性

行ってみて驚きました。囲碁の参加者は、たった 8 人、それに対し将棋は 22 人もいました。将棋界のヒーロー、藤井聡太 8 冠ブームを見た思いですが、さらに驚いたのは囲碁の女性参加者が 1 人に対し、将棋には 6 人もの女性参加者がおり、その中に外国人の若い女性がいたことでした。

昔から囲碁は女性向き、将棋は女性には無理という話と言われてきました。理由は、将棋は切ったはったのあげくの勝ち負けなので、激しい闘いになり女性には向かないというもので、筆者もてっきりそう思っていました。



## 女性観戦者が目立った将棋大会

しかし将棋のプロの世界では女流プロの活躍はめざましく、近年は女流プロのトップクラスは、男性棋士と同格で闘える女性が出ています。ブームとは恐ろしいと思いました。勝負はトーナメント方式ですが、筆者は問題なく準決勝まで進みました。2回戦で女性とぶつかりましたが、これもなんなく退けての準決勝進出であり、ま、優勝も可能かなと自信らしいものがでていました。それが問題でした。

あまり考えずにすいすいと指し始めた準決勝ですが、序盤を過ぎたところで明らかに不利な局面になっていることに気がつきました。お相手は後期高齢者かなと思えるいわば「同輩」に見えたのも緊張感を生まなかったのです。振り飛車戦法の定番でしたが、久しぶりに指したので、途中で昔習った定石を思い出してみると、明らかに術中にはまっています。作戦負けです。お相手はやにわにスマホを持ち出し、盤面の写真を撮っています。

ははーん、敵の投了譜面の撮影か。こうなると一気に戦意失墜です。潔く「負けました」と言って投了しました。取り囲んでいた人たちがあっと驚き、一斉に声が上がりました。勝負はこれからと思っていたのにいきなり投了です。普通に指せば、不利が拡大するので、どこか勝負どころで仕掛けて逆転を狙えば戦えないこともありませぬ。得意の逆転劇かあと心の中で苦笑し、しかしお相手の方に花束を投げるのもいいかなと思って投げました。

局後の感想戦になれば、講評するプロ棋士の解説が目に見えていますので、別のセッションに参加するふりをして早々に退散しました。悔しさがあったのです。翌朝、偶然に朝食のテーブルに将棋大会を主催したプロの高田尚平・棋士と同席となりました。「昨日はどうも・・・」と曖昧な笑みで挨拶すると、高田先生も覚えていて「あれは相当の棋力がないと投げませぬ。お強いですねえ」とヘンな褒められ方をされました。「観戦していた方々は、なんで投げたのか分からなかったでしょうが・・・」と言ってくれました。その言葉で、なんだか勝負に勝ったような気分になったのですからおかしなものです。

## 若者が夢と希望も持つこととは何か

将棋大会を早々に退散して「若者が夢と希望を持てる社会とは」というセッションに参加しました。タイトルから若者が多いだろうと思っていたら、シニア階層が多いので意外感でしたが、乗船客はほとんどがシニアなので当たり前の現象です。5人の若者がそれぞれ夢を実現する体験を語り、フロアのシニア層からコメントや体験談が出てきました。



若者は、自由に学びたくて外国へ行った体験話、女性のジュニア層といっても30歳代ですが、苦労しながらもやりがいのある保健教師や留学体験者の話が続きました。フロアからのシニア発言者は、男女とも教師OB、OGであり、教師という職業に誇りを持ちそれなりに評価され、リタイア後も社会貢献で活動している方であり、改めて教師というのは聖職とよばれるにふさわしい職業だと感じました。

そこで感じたことを端的に一つだけ言うと、若者の夢と言っても、夢は与えるものではなく自ら行動を起こして自ら摘み取るものだと気がつきました。つまり、自ら判断して行動力を培うように教育することが教師の役割ではないか。教えるのではなく、気づかせる。その気にさせる。判断力を磨かせる。これが教師の本務の重要な部分ではないかと思いました。



そんなことは当たり前と言われそうですが、門外漢が感じた素朴な感想なのだろうか。このテーマについて、船には多数の教員経験者がいるので、これから話題が尽きないなと思いながら構想研究会でのテーマになると思い始めていました。

## PEACE BOAT で世界一周の旅—その 13

2024/05/05

### 船の揺れと船酔い

5月1日、世界一美しい海に囲まれたセーシェル島を出港してからインド洋をひたすら南下し、5月8日まで1週間ノンストップの洋上の旅が続いています。このところ海は時化ており、連日、船の揺れ方が大きくなっています。

陸にいるときに不意に地震に見舞われたときと同じような感じの揺れが、ほとんど切れ目なく続いているので、よくこれで船酔いにならないものだ和我ながら感心しています。廊下を歩くとき、誰もがよろめいて歩いており、14階の広々とした

バイキングスタイルのレストランに行くと、皆、トレイに料理を取り分け、よろよろと危ない歩行でテーブルにたどりついています。体のバランスをとっている器官が船の揺れに同化して、酔わないようになってしまったのでしょうか。

筆者は、ひどい船酔いにあった体験があるので、信じられない気持ちです。それは東京の南方約 930km にある火山島の西之島で突然、火山活動を再開して噴火し新島を作った 1973 年のことです。その後火山活動は収まったので、新島に接岸して「決死の取材上陸」をしたことがありました。

150トンの漁船をチャーターして、日本テレビの取材班と一緒に上陸し、1時間の制限時間内に駆け足で見て回りました。取材は成功しましたが、船の往復、ひどい船酔いに見舞われ、3日ほど食べるものを受け付けませんでした。その体験があったので、今回は戦々恐々でしたが、7万トン超級の巨船は、あっさりと危惧を払拭してくれました。

### **戦艦大和を思い出させるパシフィック・ワールド号**

以前にも書きましたが、PEACE BOAT クルーズの巨船・パシフィック・ワールド号は、あの船艦大和と同規模であることに気がつきました。軍艦と客船という違いがあり全く違った目的で造船された船ですが、乗船してみると軍艦に乗って闘った軍人たちのことを思い出させました。



パシフィック・ワールド号		戦艦大和
就航年	1995年 (2015年に改装)	1941年12月16日
総トン数	77,441	72,800
全長m	261	263
全幅m	32	39
乗員	定員・2419 117クルーズ乗客1500、 スタッフ600	2500 沈没時死者2740、 生存269
建造国	イタリア	日本

あの戦艦大和は、日本が総力を挙げて建造してから僅か 3 年 4 ヶ月後に、連合軍の総攻撃を浴びて坊ノ岬沖海戦で沈み、戦死者 2740 人、生存者は 269 人という痛ましい戦禍を残しました。甲板に立って、荒くささくれだった波頭を眺めながら、戦艦大和の悲劇を思わずにいらませんでした。

### 朝食時間と団らん

朝は6時からレストランが開店して、朝食が始まります。乗船客は高齢者が多いので、この時間になると待ちかねたように続々と人が集まってきます。入り口に立っているスタッフの責任者が、先着順にテーブルに合い相席で座るように差配します。

知らない同士が 5 人、6 人同じテーブルの席について朝の挨拶をしながら、その日の天気、海上の様子や各自の体調の具合などを話しながらの朝食は、なかなか楽しいものです。

朝食メニューは 5 階レストランが和食、6 階レストランが洋食の決まったトレイになっており、ほかに 14 階ではバイキング方式で和洋料理が多数並び、各自自由に盛り付けて食べられます。

この日の和朝食のトレイは、次のような内容でした。



ご飯は、白ご飯、おかゆ、五穀米ご飯から選びます。

牛乳はホットか冷たいものかチョイスできます。

温卵、納豆、厚揚げ煮物、焼き魚、海苔、冷や奴、お新香、みそ汁、おかゆまたはご飯、ヨーグルトそれに好みの果物ジュースと果物、牛乳がつきます。ほどほどの分量なので、完食する人が大多数です。よくできた献立であり、煮物やみそ汁の中身、魚の種類が日ごとに変わっています。毎日、ほぼ似たような献立ですが、日本の伝統的なメニューなのか飽きが来ません。洋食については、また別の日に紹介しましょう。

## PEACE BOAT で世界一周の旅—その 14

2024/05/07

### 天空に広がる満点の星に感動

明け方4時、目覚まし時計に起こされて 14 階屋上に出てみました。真っ暗闇を蹴散らすように白波を立てて船が航行しています。船上にいることを意識した瞬間、周囲が不気味にうごめいている気配を察し、目を凝らしてみると甲板の手すりを取り囲むように乗船客が群がっていました。この夜はみずがめ座  $\eta$  (エータ) 流星群の観望会でした。

皆、顔を上に向け、カメラを構えている人もいます。筆者も手すりに割り込み空を見ました。天空を覆うおびただしい星たちを見て、ああすごいなあと感動しました。自宅から空を見ても似たような星空を見ているはずですが、暗黒が広がる洋上の星空は格別なのでしょう。あの輝く恒星たちはいつから存在したのだろうか。今から2億年前の恐竜たちも見ていたのだろうか。

エータ流星群は、ハレー彗星が宇宙に残した塵が大気圏に突入したとき、流れ星となって観察されるのです。南半球では1時間で最大 50 個も流星群を観察されるという触れ込みです。

突然、ああーという歓声が艦橋に流れました。空を横切るように光線が尾を引いて消えていきました。見た、見たという声があふれ、筆者も皆と一緒にその瞬間を喜び合いました。写真に撮影することはできませんでしたが、空の写真を掲げます。この夜は、南十字星も見ることができて大満足の観望会でした。



### こどもの日のイベントを見物

小学生以下の子どもたちが5人乗船しており、5月節句の人形とひな祭りの祭壇がイベント開催スペースにセットされ見物する人たちで溢れました。

船上のイベントは、何をやっても楽しいようです。









着物の着付けコーナーは、多数の老若男女が集まっていました。

図書コーナーに置いた書籍がいつもない！

このイベントスペースの一角に、図書コーナーがあって、乗船客が持ち込んだ書籍類が並んでいます。どんな書籍でも勝手に置き、勝手に持参して5日以内に読んで返すルールです。乗船した直後は、書棚が満杯に埋まっていたのですが、いまは写真のようにガラガラです。



筆者も21世紀構想研創設 25周年記念誌の「25年間劣化し続ける国家と組織」、筆者の著書「大村智 2億人を病魔から守った化学者」(中央公論新社)、「沖縄返還密使・密約外交 宰相佐藤栄作、最後の1年」(日本評論社)、大村智先生らとの共著「イベルメクチン 新型コロナ治療の救世主となり得るのか」(河出新書)の4冊を置きました。いずれも置いた翌日には棚からなくなり、ときたま点検しますが戻っていたことはありません。間断なく次々と読まれているのでしょうか。嬉しい現象です。

## PEACE BOAT で世界一周の旅—その 15

2024/05/10

### アフリカ南東部の大都市ポートエリザバスに接岸

セーシェル島からインド洋を南下すること5日間。茫洋として海を毎日見続けていましたが、アフリカの最南端に近いポートエリザバスの遠い影が見えてきたときは、ついにアフリカに来たという実感が沸いてきました。現役時代、一度だけ生きている化石魚と言われるシーラカンスの取材でアフリカ沿岸に行くため、何種類もの予防注射とワクチンを打って準備していたことがありました。直前にビザの関係で中止になって以来、アフリカに行く機会がありませんでした。

ポートエリザバスは、近年、観光都市として急速に開発されており、動物保護区や国立公園が整備されている都市です。港に接岸すると、おびただしい乗用車が整然と並んでいることに度肝を抜かれました。それは南アフリカ共和国(南ア)から輸出される自動車であり、この国はアフリカでも随一の工業国でもあることを思い出しました。

## 余裕ある風情を感じた実物の動物たち

接岸した翌日は、港町を散策して様子を見ましたが、最大の楽しみは動物保護区の見学でした。翌日朝早く、船からバスに乗り換えて1時間半、目指したプンバ・プライベート・ゲーム・リザーブ(Pumba Private Game Reserve、ここでは プンパ動物保護区と表記)は、総面積7千ヘクタールという途方もなく広い動物保護区でした。バスを降り、ドライバーをいれて10人乗りの4輪駆動の大型ジープに乗り換えました。

洒落たロッジ風の建物から出てみると、背の低いブッシュが生い茂る起伏の富んだ丘陵地が際限なく広がっています。樹高の高い樹木はなく、四方八方見晴らしのいい丘陵地帯です。

私たちの眼前に最初に出てきたのはイボイノシシでした。見る間にヌーが出て、シカ類が出てきました。いずれもテレビの番組で見た動物たちですが、図鑑も持ち合わせていなかったので正確な種名は分かりません。



そこへいきなり、ブッシュの陰から大型のサイが2頭出てきました。おお、という歓

声が沸きましたが、サイは何事もないように草をはんでいます。動物園で見るサイよりもずっと大型に見えているのはなぜなのか。動物園のサイよりも大きいわけがありません。そり上がった見事な角が大きく見せているのでしょうか。

ドライバー兼案内人によると、サイは眼の機能が低く耳と鼻が優れているようで、地面の草しか食べないということでした。ジープからの距離は20メートル程度で、確かに地面の草だけ食べている様子を飽きるほど見せてくれました。

### ゾウが出てキリンも出てきた

ジープは、うねうねと不規則に続いているでこぼこ道をゆっくりと進んでいますが、左右、見晴らしのいい景観なので同乗者はみな、左右を見渡しているのですが、ゾウが出てきたのは、すぐ近くのブッシュからでした。



巨像という言葉がありますが、やはり大きく見えます。数十メートル先で灌木の若い葉を鼻でうまくたぐり寄せてゆっくりとはんでいます。アフリカ象の誇る大きな耳をパタパタとあおりながら、悠然と枝葉を食べている姿は、動物園では味わえない生活の余裕らしさが見えています。彼らは餌を食べることが仕事ですが、この地



では際限なく餌が広がっているのですから、余裕があるのは当たり前という野暮なことを思ったりしたとき、やにわに「キリンだ！」という同乗者の声に、ジープはゆったりとその方向に動き出しました。





キリンもでっかいなあというのが第一印象です。この丘陵地では、キリンの首を超える樹木はほとんど見当たりませんから、彼らが一番目立っているのでしょうか。見物していると、どこからともなくシマウマが紛れ込んできました。数頭のシマウマが眼前を横切っていく風景は、アフリカに来たという満足感で満たされます。

### 肉食獣は出てこなかった

動物保護区とはいえ、やはりお目当ては百獣の王ライオンのお出ましです。これだけ草食獣がいるのですからライオン、ヒョウ、チータなど肉食獣が出てきて眼前で狩りが始まる、というのはテレビの話です。僅か2時間余の見学には無理というもので、それは分かっている、ライオンが出てこないかなあと思いながら「見えない?」、「いない?」などと言いながら四方に眼を走らせるのも楽しいものでした。

見学ジープがあちらこちらと走り回っているとき、路上に近い場所で一頭のシマウマがたたずんでいました。微動だにしない姿勢でこちらを見えています。ジープがすれすれの距離を過ぎて動きません。みな「かわいいねえ」などといいながらこのシマウマを眼で追っていました。

ジープが反転して方向を変えたとき、筆者はこのシマウマの左の臀部あたりを一瞬だけ見る機会に恵まれました。その尻のあたりに茶わんくらいのサイズで赤い肉色をした部分が見えました。怪我をしていたのです。見るからに痛々しい肉をさらした色です。この平原でこのような怪我は、肉食獣に襲われときに受けたものしか考えられません。ジープは方向を変えてしまったので、筆者ともう1人の女性以外は誰も見ることはできませんでした。

あのシマウマはどうしただろうか。筆者はこの日ベッドに寝付こうとしたとき、しきりにあのシマウマのことを思い出していました。無事に生き延びることができるだろうか。アフリカの大地で出会った動物たちの光景の中で最も印象に残ったものでした。



サファリのロッジで食べたランチはフルコースが準備されており、美味しい料理に大満足でした。

この保護区に生息している哺乳類だけでも47種もいるというのです。私たちが見たのはそのうち10種程度でしょう。ヘビやトカゲ、カメなど14種類がいるし、鳥類に至っては100種類を超えているということでした。

PEACE BOAT が用意しているサファリツアーは8つありました。筆者はそのうちの1つを見ただけなので、他のコースに参加した人たちは何を見たのか。ライオンやカバやチータを見たという幸運に出会った人が出たかもしれませんが、いずれ長旅の合間に聞こえてくるでしょう。

## PEACE BOAT で世界一周の旅—その 16

2024/05/12

### 荒れる合流海域に巨船も翻弄される

PEACE BOAT は、インド洋と大西洋が合流するアフリカ大陸南端の大都市ケープタウンに近づいていきますが、日増しにうねりが激しくなり、船内の移動中に何度もよろめいて壁にぶつかっています。ポルトガルのバルトロメウ・ディアスが、1488年にインド洋への航路を初めて発見したときにも、この海域での難航ぶりが史実として残っています。故国の国王が荒海を乗り切って大陸の突端の岬にたどり着いた偉業を称えて「希望の岬」と呼び、それが地名になったとも伝わっています。

英語では「Cape of Good Hope(希望の岬)」と記載されています。江戸時代に屋久島に上陸した宣教師を調べた役人が、宣教師の持っていた地図に記載されていた外国語から、この岬を「喜望峰」と翻訳し、福沢諭吉がそのまま著書に記載したことから定着したようです。そんなことを調べているうち、船は4時間も遅れてようやく接岸しました。

## 喜望峰に立つ

船から降りると慌ただしくツアーバスに乗り換え、ただひたすら喜望峰を目指して走り出しました。出発が正午近くに遅れたので、日没前に喜望峰に到着しないと到着してすぐ帰るということになりかねません。途中で遅めのランチを食べてからもひたすらバスは走ります。

アパルトヘイト(人種隔離政策)と闘ったネルソン・マンデラの銅像が立つ市庁舎を車窓から見ながら、ともかくも喜望峰に向かってひた走りました。



ネルソン・マンデラの銅像がある市庁舎のわきを通って喜望峰へ

海岸に押し寄せる波頭が幾重にも白い線を引いて独特の景観を見せるようになります。インド洋と大西洋がぶつかり、複雑な海流を巻き起こしているのでしょうか。泡立つ波頭の模様が際だち、遠くの岩山の突端に小さな灯台が見えてきました。



案内人は、夕方にさしかかっているのですが、灯台へのケーブルカーの乗るのは無理だと言います。しかしともかくも、ここまで来たという満足感に、顔を車窓にこすりつけながら限りなく広がっている海を眺めました。バスを降りて誰もがまっしぐらに突端まで行き着き、写真撮影に入ります。ついに喜望峰に立ったのです。





この泡立つ波頭の複雑に織りなす光景を、喜望峰沖を初めて通過した海洋冒険家のヴァスコ・ダ・ガマも見たのでしょうか。ケーブルカーは時間がないので無理だとわかり、せめて記念品を買い求めようと売店に殺到しました。しかしここはすでに超満員。それでも喜望峰入りの記念品を買い物かごに入れて、さて会計となると店外にはみ出すほどの行列です。PEACE BOAT からのバスだけでなく、週末なので多くの観光バスが押し寄せています。

帰船する時刻が近づいて来ます。万一、バスが帰船時刻に間に合わないと船は出て行く、乗り遅れた乗船客は一路、陸上を走って次の寄港地、ナミビアのウォルズベイへ回るはめになります。と言うわけで買い物かごに入れた記念の土産類はすべて購入を諦めてバスに戻りました。

### グリーン・フラッシュを見る

バスに乗り込む直前、今一度、喜望峰から海水線に沈み行く太陽を眺めました。そのとき上空に向かって放射状に照らしていた赤い太陽の色が褪せていき、一瞬、緑色に変色したのです。同じ光景を見ていた人たちが、一齐に「あっ」と声を上げた次の瞬間、太陽は海水面下に没してしまいました。

この光景を見た人たちがひとしきり、緑の太陽の話で持ちきりです。後で調べたらこれは太陽が昇るときと沈むときに見せるグリーン・フラッシュという光学現象であることがわかりました。

喜望峰沖を沈み行く太陽の直後にグリーン・フラッシュを見ました。しかしシャッターを押す前に消えていきました。



バス道路の脇にいたダチョウの親子

#### アフリカ随一の工業国の南ア

南アフリカ共和国(南ア)は、日本人ならラグビーの強豪国であることを知っています。この国に来てびっくりしたのは、男女とも体格が並外れて大きいことです。黒人と白人とさまざまな人種で構成されている国ですが、みな優れた体格をしています。

中でも驚いたのは、女性の幅の広さです。背も高いが幅がある。それも半端ではなく、ビーナス像を思い切り横に太くしたような、豊かな胸と偉大なヒップがとてつもない存在感を出しています。一体、これはどう言えばいいのでしょうか。日本的に言えば「デブ」という言葉が浮かびますが、しかし彼女らの行動と動作を見ていると素早く、自然な仕草です。一緒に行った乗船客のご婦人たちも語っていましたが、「どの女性も大きくて優しいのよね」と言います。店員さんもウイエットレスのお嬢さんも、にこやかな笑顔で、優しいという言葉がぴったりでした。



レストランのウェイトレス女性とツーショット。にこやかにカメラに向かってピースポーズを作ってくれました。このような体型をした女性が普通でした。

### スポーツ大国と治安の悪さ

国民的に人気のあるラグビーは、ワールドカップ(W杯)に1995年に初参加していきなり優勝。99年には3位、07年には、強豪イングランドを破り2度目の優勝。昨年のW杯で日本が南アに敗れたのは当然の結果だったのでしょ。

南アはラグビーだけでなくサッカーも強く、国民の多く、特に黒人層には大人気だそうです。野球の WBC にも出場しており、一次リーグで敗退するも MLB の主力選手を擁するカナダに 8-11 と善戦して世界を驚かせました。

男女とも大型体格と機敏な動作を見ているとスポーツ大国であることは理解できます。港には輸出する乗用車が大量に並び、豊かな鉱物資源とともにアフリカ随一の工業国であることも分かりました。ところがどうにも理解できなかったのは、治安の悪さです。

PEACE BOAT でも、下船して歩くときの要注意を細かく書き込んでいます。強盗、ひったくり、コソ泥などが蔓延しており、殺人事件も普通に起きているということです。原因は、貧富の差にありそうだし、人種間の確執もまだありそうです。

5月12日朝、船はケープタウンを離れて大西洋に出ました。これから一路北上してヨーロッパ大陸へと向かいます。海上の波は依然として高く、船は揺れ動いています。

## PEACE BOAT で世界一周の旅—その 17

2024/05/15

### 乗船一か月

4月13日に横浜港を出港してから1か月が過ぎました。旅程の3分の1ですから早いものです。今日5月14日は、ナミビアのウォルスベイに寄港中です。

一か月間、船で過ごしてようやく、どこになにがあるかが分かり、目的の場所に迷わず行けるまでになりました。引っ越した新住所の周辺のことがほぼ、大まかに分かってきたという感覚でしょうか。

## プールの水がダップン、ダップン・・・

大西洋に出たからは海の波浪も穏やかになりましたが、インド洋と大西洋の合流するあたりは、ひどい揺れが続きました。そんなとき「今日も遊泳禁止だよ」という会話を聞いて、どこのことだろうと思っていたら 12 階にあるプールのことでした。プールも遊泳禁止となり、行ってみると大きな網をかぶっていました。

プールの水の動きを見て仰天しました。ダップン、ダップン・・・とプールの水が大きい波のように揺れ動き、オーバーフローした水がプールサイドに乱暴にあふれ、側溝に勢いよく流れ込んだ水がここでもあふれ、プールに戻ってきています。船の揺れが大きいことは感じていましたが、プールの水の大きな揺れを見て、これは大変な揺れなんだと初めて知りました。これではプールで泳ぐことなど不可能です。

仕方なく同じ階のサウナに入りました。こちらは毎日行くようになり、アフターは泡立つジャグジーで一風呂に入った気分を楽しんできました。サウナに行くようになってから夜中の脚の吊りもなくなり、ひところ、船で流行った扁桃腺の炎症も治まりました。

熱も出ないで気分も変わらず、扁桃腺だけごろごろと痰がからまる炎症を起こしていました。多くの人たちがかかっていたので、この船で蔓延した感染症です。診療所でお薬を処方された人もいますが、大体は自力で回復したようですが、筆者はサウナに行って治しました。

プールが遊泳禁止のとき、サウナに付属しているジャグジーも禁止となり、小型の円形プールも禁止でした。お風呂気分で楽しんでいたジャグジーがないのは不満でしたが、海の荒れには勝てません。

## 食事のレシピの苦勞を知る

前にも書きましたが、三食すべて 3 つあるレストランのどこかでタダで食べられます。アルコール類は各自負担ですが 5 階と 6 階にあるレストランは、夜になるとフ



ルコースのディナーになります。こちらに行くときは、原則そして男性は襟付きのシャツ着用、女性もそれなりのファッションが要求されていますが、早い話、Tシャツ、サンダル、半ズボン以外は、大体 OK です。



ある日のディナーのメニューです。ここから選んで注文します。

ディナーは前菜、スープから始まってデザートまでフルコースですから横文字と日本語で書かれたメニューから選んで注文します。ディナーには箸はなく、ナイフ・フォーク・スプーンの洋食スタイルです。この料理がなかなか工夫されており、感心しながら食べています。厨房も毎日、同じ乗船客に出すので献立作成には相当な工夫を凝らしているが分かります。





メインディッシュが写真にありませんが、そのうちご紹介します。

14階のバイキングスタイルのレストランは、服装の制限はないので、若者たちはTシャツ、サンダルもいます。こちらの料理も、和食、中華風、エスニック風、インド風など多彩な献立で、飽きさせないで食べてもらおうとする工夫が見られます。

長い船旅、食べることが最大の楽しみと言ってもいいでしょう。ご婦人たちは、三食据え膳付きで、帰国したらどうしようという話題がよく出ています。体重計を見ながらの調整にもかなり難航している会話があちこちから聞こえてきます。

## PEACE BOAT で世界一周の旅-その 18

2024/05/15

### 世界最古のナミブ砂漠に感動

南アフリカ共和国(南ア)の北に隣接するナミビア共和国のウォルビス・ベイの港に接岸されたとの船内アナウンスを聞いてデッキに出て見ました。予想に反して一面、霧がかかっており、肌寒い空気があたりを支配していました。

地球上で最古の砂漠を持つ国と聞いていたのですが、第一印象は意外でした。灼熱の砂漠地帯を勝手に想像していたからです。バスで 40 分ほどで、この国最大のナミブ砂漠に着きました。幹の太い椰子の木に似たずんぐりした樹木が道路沿いに整然と植えてあります。バスを降りると赤茶けた地面がそのまま砂漠の稜線につながっていました。



遠い砂漠の稜線に豆粒ほどの人影が見えます。



サングラスなしではいられない強い太陽光、砂漠のうすい茶色と透き通った青い空が対照的でした

#### 水が流れるような微粒子の砂

砂漠と言っても広大な砂地が広がっているのではなく、砂山の丘陵が見る限り幾重にも連なった景観です。言ってみれば砂で作られた山々ですが、草一本生えていないきれいな砂地の丘と稜線が限りなくつながっています。

筆者は、鳥取砂丘の海岸線の砂地しか見ていませんし、アメリカではユタ州やネバダ州の砂漠を車で通りすぎりに見た程度です。名画「アラビアのロレンス」を見ていたので、アフリカの砂漠とはあのようなものだろうと想像していましたが違いました。





広い砂漠の中にたった一か所だけ赤い花が咲いていました。同行者に聞いたらブーゲンビリアということです。なぜこの一か所だけに真っ赤な花を咲かせているのか。その自然の妙に興味を持ちました。

世界最古とうたっているナミブ砂漠は、全く違った印象でした。遙か遠い稜線の上を小さな人影がまるで虫のように移動しているのが見えます。あそこまで行くのは到底無理ですが、それでも稜線に向かって登って見ました。

人が歩いた足跡をたどって登りますが、足もとがふかふかと下に潜り込んでいきます。何の抵抗もなくやわらかい感触で足もとが砂地にとられていきます。危うく倒れそうになって砂地に手をつけて、この砂漠の砂を知って感動しました。

砂と言うよりも柔らかい布地に似た感触が手に伝わってきました。両手で砂をすくってみてその謎が分かりました。両手ですくった砂が、まるで水のように指の間から下へ流れていきます。水に等しい滑らかな感触で下へ流れます。これは砂ではない。

砂粒という感じではなく、滑らかな流動物が抵抗もなく手の平を通過していくという感じです。よくよく指で触って見ると、砂粒のきめの細かさが伝わってきます。数億年、数千万年の時間の中で、この砂たちはまるやかにきめ細かく、まるで水流になるような粒子にされてしまったのでしょうか。草一本生えない秘密が分かりました。こんなに抵抗のない砂では、植物は根を張る根拠が作れないでしょう。



写真の太い幹には枝葉はなく、てっぺんには天に向かった枝が挿し木のように生えています。この樹木は、砂漠地帯の道路沿いに移植されたようで、きれいに並んでいます。しかし太い幹はゴツゴツした固い表皮に見えますが手で触ってみると、あっけないほど砕けしまう柔らかい表皮でした。砂漠に生息する特異な植物に触れた思いでした。

ナミブ砂漠の砂を日本に持って帰りたくなりました。バスの座席に配布したあったビニール袋は、砂漠の砂を持って帰りなさいというサインだったのでしょか。お土産にここの砂を入れて持って帰れという配慮ではないかと思ったのですが……。

### 日本の2倍以上の国土に300万人足らずの人口

ナミビアは15世紀末にポルトガル人が上陸した土地でしたが、砂漠地帯であるため関心を示さず、1878年にイギリスがこの国の唯一の港となったウォルビス・ベイを占有するまで未開の土地だったということです。その後、ドイツの植民地となり、今でも往時の風景を残すヨーロッパ風の街並みがありました。

小さな市街地には垢抜けた商店が並んでいましたがバスで通り過ぎただけで、この国とは砂漠だけの短時間の見物で終わりました。



露天で販売する民芸品売り場では、現地人の人が熱心に客引きしていました。





元々はダイヤモンド、ウラン、銅、亜鉛など鉱物資源が豊富で産出量もかなりなものです。ダイヤモンド採掘で存在感があったそうですが 2000 年以降、ダイヤモンド以外の鉱物生産量が上回るようになり、ウランの年間産出高は 4626 トンと世界第 4 位を占めるまでになったそうです。こうした鉱産資源は、隣国の南アをはじめ、多国籍企業に採掘されているため貧富の差は解消できず、国の発展には多くの課題があるようでした。



ヨーロッパ風の街並みと瀟洒なホテルもあり、そこで出されたランチも美味しくいただきました。



気候は温帯にあるので過ごしやすく、ドイツ文化が今なお息づいています。世界に誇る砂漠資源だけでなく、豊富な鉱物資源を独自に活用出来る国になれば、大きな発展が出来る国です。白人と黒人の混血の思われる人も多く見かけられ、アフリカの中でも特異な文化と未来を背負っている国ではないかと思いました。

## PEACE BOAT で世界一周の旅—その 19

2024/05/17

### 南半球は太陽が西から昇る!?

5, 6 人で囲む朝の食事のテーブルは、前日の出来事や各自の近況報告で会話が弾みます。知らない同士ですが 1 ヶ月も経つとどこかでお顔を見たかなと思う人も出てきます。ちょうど、太陽が昇ってくる時刻でした。水平線の彼方から赤い太陽が昇ってくる光景は、いつ見てもいいものです。

角際で写真を撮っていたご婦人が「あら、今日は太陽が西から昇っている」とつぶやきました。船は北に向かって航海しているので、太陽は船の右方向に見えるはずですが、それが左方向に見えている。だれかが「南半球は、太陽は西から昇るんだよ」



という「そんなこと学校で習わなかったよね」と言います。なんとなくそれで皆、納得したようでした。

筆者は、そうだろうかと頭の中で地球を思い浮かべて考えていましたが、納得いかない。ヘンだな。進行方向の左側に太陽がある。ということは船は南に向かっている。謎は、翌日の朝の食卓で解けました。

### **急患発生で船がナミベアに戻った！**

前日、急患が発生したので船は反転し、ナミベアに戻ったと言うのです。船内放送で3回も知らせ、ナミベアには急患を搬送するヘリコプターがないので、高速モーターボートが接近し、船から降ろした急患を収容して戻って行ったというのです。

患者さんは若い人だったようで、皆、無事を祈る言葉であふれていました。すでに船で亡くなった方が2人出ているという話も聞きました。PEACE BOAT スタッフに聞いた話ではありませんが、食卓の話題ではよく出てきます。スタッフも入れて1500人の乗員がいるのですから、そういうこともありうる話です。

PEACE BOATに申し込んだとき、70歳以上は健康診断書を出すように言われ、筆者は一か月以内の人間ドックの診断書を提出して、乗船OKをもらった身でした。

ともかくも太陽が西から昇ったと思っていたとき、船は急患収容のため、反転してナミベアに戻ったので南に向かって航海していたのです。太陽はやはり東から昇っていた！

謎が解けたとき、みんなで大笑いしました。どおりで船の速度が速かったことを筆者は思い起こしました。窓から流れゆく光景を見ていると、いつもの船の速度より速いなと思ったのです。しかし、船内放送で3回も急患発生したことを告知したことに全く気がつかなかったことにショックを覚えました。PCで何か作業をしているときに、船内放送があっても上の空でいることが少なくありません。

船内放送は、英語、日本語、中国語、韓国語と同じことを4回も放送するので、うるさいなあと思うことが多いのです。日本語のところできちんと聴いていなければ、あとは雑音と同じです。

急患を引き渡して船が再び反転して北へ向かったときに、あのむせび泣く汽笛を一回だけ鳴らしたと言うのです。急患搬送のお礼と患者には無事に帰って来いよと鳴らしたのですが、筆者はこれも聴いていませんでした。そうこうしているうち、部屋のキーを中に置いたまま外に出てしまい、レセプションまで行って開けてもらうという失態も演じました。我が国の劣化を嘆く前に自らの劣化を反省するという日になりました。

### 趣味道楽から教養テーマまで各種の集まり

PEACE BOAT 乗船客が自主的に企画して発表したり行動を起こす「自主企画」というイベントがあります。1300人(寄港地で乗り降りの乗客がいるので、大体の人数です)の人がいるので、趣味・道楽から始まってスポーツの類い、文化・芸術、教養まで人々の興味のあるものすべてに人が集まるもんだと感心しています。

例えばお習字、折り紙、朗読会、ペン字履修などに中国の舞踊、太極拳、ヨガなども会場を覗いてみたらほぼ満杯の盛況です。ヨガやサルサなどは、大きな会場やプールの周囲の回廊をうまく使って楽しんでいます。



小中学校の教育を考える会に集まり、早速意見交換会が始まりました

## 小中学校の教育を考える会が発足

筆者が日本の学校給食はいまや世界一であるという主旨で講演をしたことがきっかけになって、若い世代の乗船客と言葉を交わす仲になりました。その中に、中学校の国語の教師を4年務めて辞め、船に乗ってきた女性がいました。理由を聞いてみると、教師・学校という職場に飽き足らず、生き方を考え直したいというようなことを言います。

21世紀構想研究会の創設から25年を記念して開催したシンポジウムは教育がテーマだったので、そんな話から、船でも教育問題を提起する自主企画をしようかという話に発展しました。そこに大学の教育学部3年生の男子学生も加わることになり、3人が発案者になり「小学校の教育を考える」自主企画を立ち上げました。

## 20人以上の集まりにびっくり

当初、どのくらい集まってくるか不安もありましたが、開いてみれば20人以上が会場に集まってきました。船の中で知り合いになった元小中学校の教員をしていたご夫妻、国立大学の教授をしていたご婦人など、教育関係者も顔を見せており、初等中等教育が劣化をしている現状を憂えることで一致していました。



参加者は意見を付箋に書いて出し合い、終了後の整理に役立たせます。学校現場ではこのような方法がよくとられているようで、勉強になりました。



これから現場で何が問題になっているのか。その現状を出し合い、解決する方法を模索してまとめ、それを行政当局や政治家に届けて対応策を講じてもらおうという狙いです。最終的には船でシンポジウムを開催してまとめるという計画です。

参加者の意見をどのように集約するのか。主催した若者たちは、大きな付箋を配布して、そこに全員の意見をメモしてもらい、それを集めて整理するという方法には感心しました。教室の授業では、よくやっているという方法だとか。こうして教育問題を討論してよりよき現場の実現に船の同士は動き出しました。

## PEACE BOAT で世界一周の旅ーその 20

2024/05/19

### ガーナで野口英世に会えないのは残念

PEACE BOAT はいま、大西洋のアフリカ大陸沖をヨーロッパに向かって航海を続けています。ナミビア・ウオルビスベイを出航してほぼ 1 日後に、船内に急患が出て船は引き返し、ナミビアに降ろして再び北上するというアクシデントに見舞われました。

この予定変更で、今後の船旅のスケジュールが変更されるかもと失敗しましたが、帰国までのスケジュールは予定通りとのアナウンスもあり、窓から見える景色から船が速度を上げている様子が見えました。

アフリカ大陸への接岸は南アフリカ共和国と隣国のナミビア共和国の 2 国だけであり、筆者が期待していたガーナには寄港する予定が組み込まれておらず、あてが外れました。ガーナは、日本人の心の偉人である野口英世が黄熱病で斃れた地であり、ガーナには野口の偉業を称える記念像などもあるので期待していました。今回は、これがないのでその代わり、船内で野口英世を顕彰する講演会を開催する予定です。

### 悲劇の大陸アフリカの現実を知る機会

アフリカ大陸に 2 回寄港しただけで後はひたすら外洋を北上する航海です。この機会に船内では奴隷の歴史やいまなお政情不安定で混乱するアフリカ諸国の様子を報告する講演などがありました。筆者がその中でも今更ながら知って驚いたのは奴隷の歴史でした。

人間が人間を売り買いする奴隷売買は、死の商人とも言われています。奴隷を運ぶために開発された道具類は、家畜動物でもこうはしないだろうという思うほど劣悪でひどいものでした。人間は知恵ある動物ですから、家畜並みの道具では簡



単に破られて逃げられてしまう。人間を絶対に逃げられないように縛り付ける道具は、半端ではありません。

いずれも講演の際に写真で見せられたものだけでしたが、見るに堪えないようなものばかりでした。

### デンマークの奴隷制度を知る

「雪の女王」や「人魚姫」などの童話を生んだアンデルセンは、デンマーク生まれの作家です。北欧の最南端のスウェーデンに隣接している国で、首都のコペンハーゲンにはトランジットする大きな空港があり、何度も通過していましたが、チーズやバターなど高級乳製品を製造している国、程度の知識しか持ち合わせていませんでした。

そのデンマークが、1660年ころから1800年代初頭まで、アフリカ人を売買する奴隷商人として世界のリーダーの一角になっていることを知ってびっくりしました。当時、デンマークの植民地であった西インド諸島のセント・トーマス島などに非人道的な方法で運びました。そして、主に砂糖やコットンのプランテーションで奴隷として働かせ、富をあげていたという歴史がありました。

調べてみると、確かに多くの記述がネットでも掲出されていました。デンマークはこの暗い歴史を消し去りたいという思いに駆られたようで、世界で初めて奴隷制度を廃止した国として記載されたこともあったようですが、それは大きな間違いとして訂正される騒ぎもあり、いまでは史実を向き合いながら過去の歴史清算をしているという話でした。



アフリカのマリー・トーマス(Mary Thomas)は、奴隷解放に立ち上がった女性です。奴隷労働者たちと反乱を起こし、約 50 もの砂糖プランテーションや畑、家屋に火を付けて焼いた歴史をつくりました。奴隷解放のヒロインとして今に伝わっています。

## PEACE BOAT で世界一周の旅—その 21

2024/05/20

### 沖縄返還の密使・密約のすべてを語る

沖縄返還は 1972 年 5 月 15 日に行われ、今年で 52 年目になります。船の自主企画の集まりで、沖縄に関係する人々や沖縄に興味のある人が 30 人ほど集まり、沖縄の米軍基地の ん b ひどさが大きな話題となりました。沖縄から PEACE BOAT に参加した人々は、口々に日常的に活動する米軍の存在を批判していました。

こうした意見にも後押しされ、筆者は「沖縄返還と密使・密約外交のすべてを語る」とのタイトルで講演を行いました。船内で 2 番目に大きな会場に 220 人が参加して、熱心に聞いてくれました。

筆者の活動領域は、科学技術関係、知的財産権、ノーベル賞などですが、沖縄返還とこのときに発生した毎日新聞社の西山太吉記者逮捕事件を警視庁記者クラブで担当したこともあり、長い間、記憶の底でくすぶっていました。

5 年ほど前に、終活に入って要らないものを整理しはじめたとき、膨大な沖縄返還関連の資料類を発見し、一度は目をつぶって廃棄することにしていました。しかし、過去 50 年近くにわたって関連資料や文献を集めてきた行動を考えながら、段ボール箱を開けてチラチラと眼を通していくと、次々と理不尽な佐藤栄作総理の言動やその後の自民党政権の責任感のないでたらめな見解発表などが否応なく眼に入り、ついに返還のすべてを事実の積み重ねで書き残し、後生の外交史研究者の文献として残そうと考え、にわかに執筆エネルギーが湧き出しました。そして返還から 50 年目の節目に日本評論社から「沖縄返還密使・密約外交、宰相佐藤栄作最後の一年」を上梓しました。

今回、船に乗って食事と同席した方や、何かの会合で知り合った方に、沖縄返還の話をしてみるとほぼ何も知らない人ばかりでした。知識の希薄さではなく、このテーマは、もはや風化してしまったからです。

筆者が確信を持って「佐藤栄作の外交の私物化」の話をする、例外なく驚いた表情になり、是非、船の講演で聴きたいという意見が寄せられ、この日の講演に繋がりました。



### 今に繋がる負の遺産をどうするのか

佐藤栄作とニクソン大統領の密約の中でも、日本国民として絶対に許してならないことは、米軍が有事の際の核兵器の日本への持ち込みを容認する議事録を作っていたことです。この議事録は、佐藤首相とニクソン大統領が署名したもので、一通はアメリカ国務省に「国家的重要書類」として保管されていますが、佐藤が持ち

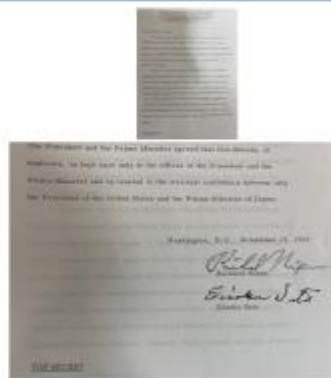
帰った一通は所在不明になっていたのが後年、佐藤邸の書斎にあったものが確認されています。

## 密約1 沖縄へ有事の核持ち込み

沖縄への有事の核持ち込みを密約した日米両首脳の議事録署名書。この議事録は米国務省に保管。いまも米の国家最高機密扱い（朝日新聞特報）。

日本の署名議事録は、佐藤栄作邸で保存（読売新聞特報）。

いまなお政府も外務省も公式として密約を認めず、この議事録は宙に浮いたまま。アメリカは国務省が国家的重要書類として保管（朝日新聞特報）



15

日米両国の首脳が署名した重要な書面が、一方は国家の機関が重要書類として保管し、一方は元総理私邸の書斎に眠っていたという事実は、国民として許してはならないことだと思えます。首脳会談後に発表されるコミュニケにも記載されない重要案件は、アメリカ側は議会の秘密会議で説明されて了解をとり、日本は佐藤総理だけが知りうる内容だったのです。





台湾・北朝鮮問題など、日本列島近傍では、時としてきな臭い状況が持ち上がり、有事に巻き込まれた場合、米軍の判断で日本の基地に核兵器を持ち込む「権利」を米側に与えた密約をどうするのか。

さらに西山記者逮捕に繋がった米国が支払うべき賠償金を日本が肩代わりして支払うという密約は、今の 米軍基地への「思いやり予算」に繋がっているものであり、理不尽な「思いやり」として問題になっています。

## 密約5 秘密賠償金の支払い方法

日本が米側に支払う賠償金は3億2千万ドル。  
しかし実際は、この2倍以上を秘密裏に支払ったと言われているが、詳細は今なお不明。  
防衛予算に潜り込ませて支払ったとの説もあるが、正確なことは不明。



旧防衛庁

21

### 沖縄返還の是非ではなく国家のあり方の問題

こうした問題は、沖縄返還が「良かった・悪かった」と言う問題ではなく、国家の体裁をしていない外交折衝であり、政治の劣悪さ・未熟さをさらけ出しており、その手法はそのまま負の遺産として残されてきています。

森友学園・国有地売却の公文書改ざん事件でも、財務省は文書開示をせず、裁判所も国民からの開示要求を棄却しています。近畿財務局の職員が自殺に追い込まれ、その職員の妻が人事院に関連情報の開示を要求しましたが、70 ページの文書のほとんどが黒塗りというあきれた行政の対応をみると、国民不在の政治と行政が連綿と続いており、そのスタートは沖縄返還まで遡っていきます。

筆者の論評はいくつか提示しましたが、大半は米公文書公開の事実資料、佐藤栄作の密使となった3人の学者と企業人の暴露本の内容、首相官邸の秘書官の日記と総理大臣主席秘書官の日記、佐藤栄作の膨大な日記など事実の掘り起こしで示しました。

講演後に多くの方からショックを受けたとのコメントをいただき、この講演会はそれなりに受け入れられたとの感触をいただきました。

## PEACE BOAT で世界一周の旅—その 22

2024/05/22

### 運動会順延でクルーズディレクターにインタビュー

この日は PEACE BOAT の大運動会の開催日でしたが、あいにく天候不順で順延となり、予定されていたイベント、企画ものがすべて先送りとなりました。

趣味・道楽から各種教養、スポーツ、ヨガ、ダンス、講演会、セミナー、映画など多くのテーマで毎日、50本もの企画ものが朝から晩まで10会場のどこかで走っています。多いときは1日、80本もの企画ものが開催されているという盛況です。

PEACE BOAT の「売り物」は、この豊富な企画ものにありそうです。

その責任者を務めている鈴木隆之・クルーズディレクターは、この日は運動会順延で多少、暇だろうと思ってインタビューを申し入れましたが、15分しか空きがないという多忙の身でした。



### 多忙の身、15分という制限付きのインタビューでした

「PEACE BOAT に乗船して19年になります。この船は就航から40年ですし自分の年齢も40歳なので、これまでの人生の半分はこの船とともにいる勘定です」と言います。

船に乗った動機は、もともと一か所にとどまっていることが苦手なので、船に乗って世界各地を転々と訪問していくことは「天職」に見えたそうです。専門学校を卒業後、すぐに旅客船のスタッフとして乗船し、半年後に PEACE BOAT に移りました。

「船に乗っていると日々の景色、海の様子、人との巡り会いがすべて変化しています。それがたまらなく自分の生きている価値観に合っています。百聞は一見にしかずといいますが、まさに自分の眼で確かめ体験することがいかに貴重であるかが、今更ながら分かりました」

PEACE BOAT に乗るきっかけとなったのは、教科書問題があったと言います。戦時中の「侵略」を「進出」と書き換えた問題で大きな議論が広がりました。実際に

はどのような有様だったのか自分の目で確かめてみたいという思いもあったそうです。「歴史だけでなく、現実の問題を自分の目で見て確かめることの大事さを学んでいます」と言います。鈴木さんの行動派の一面は、学生時代に自転車で日本一周旅行を決行したことに現れています。その体験談も企画シリーズで語って聞かせ、多くのファンを引きつけています。

### イラン大統領機の墜落事故で時事解説

この日の夜、イラン大統領のヘリコプター墜落死が及ぼす中東問題について、急ぎよ、PEACE BOATの「水先案内人」として乗船していた国際政治学者で中東専門家の高橋和夫氏の解説講演が組み込まれました。高橋氏が乗船していたというタイミングにも恵まれましたが、このように臨機応変に乗客の希望を先取りして企画ものを打ち出すスピード感もなかなかのものです。



超満員の会場でイランを取り巻く状況を時事解説する高橋和夫氏

高橋氏は、「1960年代に `最新鋭、のヘリコプターが墜落した事故だった」とすでに老朽化していたヘリコプターの機能を語り、一瞬、世界に緊張感を走らせた大統領の墜落死を単なる「事故死」の可能性を示唆する内容でした。そして多数の写真や図・ネット情報を見せながら、イランの複雑な権力構造を明快に示し、イランの国内事情を簡潔に解説して聴く人たちにイランの現状を見せてくれた洒落な時事解説は流石でした。

### サルサ指導でも大活躍

鈴木ディレクターは、意外な面を持っています。業務の多忙をぬってサルサというキューバダンスを教えています。男女がペアになって、ジルバとマンボを合わせたような軽快なステップで踊るダンスです。むかしこの船で教えていた先生のステップを習っていつの間にかプロの域になり、いまや「教え上手」と評判になっている一面もありました。

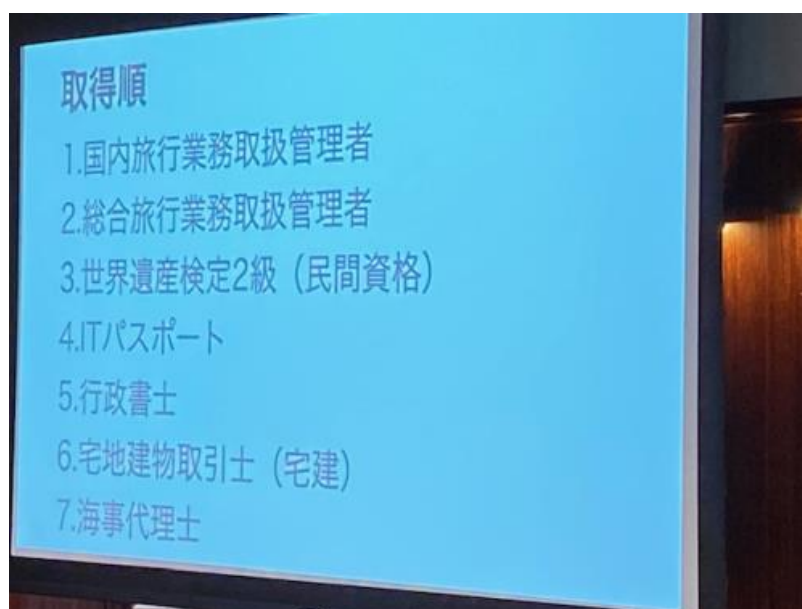
さらに驚いたことは、鈴木さんはコロナで船が休んでいた 2 年間に、資格試験を 7 つも取得していたことでした。

①行政書士、②総合旅行業務取扱管理者、③宅地建築取引士(宅建)、④海事代理士、⑤国内旅行業取扱管理者、⑥世界遺産検定 2 級(民間資格)、⑦IT パスポート

これは試験の難しい順序に並べたものですが、7 つのうち 6 つが国家試験です。コロナで船が出なくなっても、時間を有効に活用する鈴木さんの無駄のない生き方に感動しました。







この事実は、今回の PEACE BOAT 航海の PEACE BOAT 企画の中で発表されたものですが、スタッフはいい企画をしたと思います。

105日間かけて世界一周は、確かに魅力的な旅ではあります。1300人の乗船客を毎日、飽きさせずに次の寄港地へと運ぶ企画ものがあって初めて充実した船旅になることを知り、陰で支えるスタッフたちの一面を知る機会でもありました。

## PEACE BOAT で世界一周の旅—その 23

2024/05/23

### 洋上・大運動会の開催

待ちに待った洋上大運動会が開催されました。4チームに分かれた対抗戦です。赤・青・緑・黄色の色分けですが、誕生日で所属チームが決まります。

2, 3, 5月生まれが赤軍団

4, 6, 8月生まれは緑軍団

7、9、10月生まれは青軍団

1、11、12月生まれが黄色軍団

筆者は11月生まれなので黄色軍団に所属しました。

### 若手主導で応援合戦の練習

開催のほぼ一か月前から所属する団の若手が集まり、応援パフォーマンスの練習や競争種目への対策などを練り始めました。若手と言っても30歳代以下の人が多く、年配層はただ、参加するという感じでした。それでも開催日が近づくと所属する色が何かで話題が出たり、ついでに誕生日にまつわる話で盛り上がっていました。

船上での運動会と言っても最初はピンときませんでしたが、12階は広々とした空間があります。真ん中にプールを挟んでチェアが並んでいますが、通路は広く余裕があります。その空間を利用していくつかの運動会プログラムが組まれていました。

主催者の PEACE BOAT 関係者に聞いたところ、1500人の乗船者のうち運動会に参加した延べ人数は1000人くらいだと言います。ちょっとだけ顔出ししという人も大勢いましたが、やはりどんなものかを見物に出かけた人が多かったようです。

大型船とはいえ、船上で運動会が開かれるとは想像できませんでしたが、会場に行ってみれば、それなりの空間はあり、高齢者たちもたちまち童心に返って応援する姿が見えました。やはり対抗戦はいいものです。



筆者の所属する黄色軍は、意気のいい女性軍団が、文字通り黄色い声をあげて開催冒頭から大張りきり。



そこへ台湾のグループも加わって氣勢をあげて、いよいよ盛り上がっていました。



となりの赤軍団も団結を誇る氣勢をあげて、対応意識を燃やします。



障害物競走があつて、さまざまな障害を越えてリレー式に競争するもので、年齢に関係なく、大競争になっていました。





運動会を盛り上げる綱引きもありました。黄色軍団は、用意ドンのかけ声とともに赤軍団にあつという間に引き込まれての大負け。年配層からは、「勝負になっていないのは、タイミングの問題。一斉に腰を据えてかからないと簡単にやられる」という悔しいコメントが飛んでいました。





運動会の定番の玉入れです。自分たちの所属する色の玉だけを籠に入れる競技ですが、これが年配者にも受けて大歓声の中で玉が飛んでいました。



結果は、緑軍団が優勝。さまざまな種目の点数の合計ですが、緑の587点と最下位の黄色が506点。以外と差がつかしました。筆者の予想では、点差がない拮抗した対決に見えましたが、競争とは差がついてこそそのものなのでしょうか。



優勝の発表に、喜びを爆発させる緑軍団の人たち。午前と午後の合計4時間半にわたって展開された洋上大運動会は、多くの感動と団結と歓声と笑いを残して、大西洋のひろい海上に響きわたっていました。

## PEACE BOAT で世界一周の旅—その 24

2024/05/26

### 11 日ぶりに見えた陸の明かり

アフリカ大陸最南端の喜望峰を回ってインド洋から大西洋に出た船は、途中で南アフリカ共和国(南ア)、ナミビア共和国の沿岸を経て一路、ヨーロッパ大陸へと北上しました。途中、急患をナミビアに降ろすために引き返すハプニングもありましたが、そのハンデを取り返すため船足を速めてひたすら北上する日々でした。

船の最上階の 14 階に出て甲板を回って歩く日もありましたが、四方八方大海原で陸の景色はつゆほどもなく、大西洋を飽きるほど見る日々でした。

5 月 26 日の早朝、部屋のカーテンを開けたところ、点々と灯がともる陸の景色が見えたときは感動しました。ついに 7 つの島から成るカナリア諸島のグラン・カナリア島の首都とも言われるラスパルマスに近づいてきたのです。



早速、7階のデッキ(甲板)に出てぐるりと一周してみました。7階は船の高低のちょうど真ん中あたりであり、一周出来るようにデッキ廊下があります。一周、約500メートル強。3周すると1マイルということです。

オリンピックなどの陸上競技のトラックは、1周400メートルです。それよりも一回り大きなトラックが船の中にあるのです。船は刻々と陸に近づいていきます。日の出前に瀟洒な建物に明かりがともり、人の息遣いが感じられる光景はいいものです。乗船客がデッキに群がって接岸する作業を見ている。どの人もこの島に上陸することを楽しみにしていたことがよく分かりました。

### **島の歴史を知って文化の発祥を知る**

この諸島はスペイン領ですが、地図で見ると本国からは遠く離れています。カナリア諸島という名前から、愛玩用として飼われているカナリアの原産地ということからついた名前のように。諸島の中の「首都」とも言われるラスパルマスに第一歩を踏み出しました。



地図の真ん中の黄色い部分がスペイン。左下の赤い諸島群がカナリア諸島。

年間を通して温暖な気候、そしてほぼお天気続きという自然条件に恵まれているので、ヨーロッパのハワイあるいは大西洋のハワイとも言われています。その地を利用して一大観光地として発展してきました。

原住民もいたのですが、スペインが中南米への進出基地として使うようになり、その歴史的な過程の中で独自の文化が発展し、今ではヨーロッパだけでなく世界中の人々を引きつける一大観光地へと発展しています。

タクシーはもちろん、露天に出ている洒落た土産物売りもすべてクレジットカードの使用が出来るも驚きました。滞在時間が短いので独自の種の発展と景観を作っている自然公園まで足を伸ばす時間はありませんでしたが、サンタ・アナ大聖堂へ行って見ました。ローマカトリック教会のカナリア諸島主教区の本拠地となっており、1478年に建築されたカナリア諸島の中でも最も有名なモニュメントの1つです。





大聖堂は表だけでなく中に入ってみると荘厳なたたずまいであり、キリスト教の歴史を伝えていました。





中に入ると荘厳なたたずまいの中で宗教の歴史を彩る展示祭壇が多数あり、ミイラも飾っていることにびっくりしました。



コロンブスの家は、コロンブスの大旅行の歴史とその業績などを展示しており、多くの来訪者で賑わっていました。



海水浴場は、大規模な防波堤に囲まれており、早くも多くの海水浴客が楽しんでいました。

## PEACE BOAT で世界一周の旅ーその 25

2024/05/27

### カナリア諸島で食べたスペイン料理

グランカナリア島・ラスパルマスに着いて11日ぶりに陸にあがって島の歴史を語る大聖堂を見物したことは前回、書きました。今回は、この島がいかに観光地として発展しているか食べ物で紹介します。

日本の地方都市や離島でも同じような文化が栄えないだろうかと考えました。

筆者は世界中どこへ行っても必ず、その地域の中心の市場に見学に行くことにしています。その地での食生活や様々な日用販売品から住まいの環境と物価がわかるからです。この島の市場に行って驚きました。とにかく潇洒できれいなことです。









写真で見るように、高級食料品専門店がアーケードの中に並んでいるのです。これはこの島の住民のためのマーケットではなく、観光地に訪れる人々へ向けた店舗ではないかと思うほどです。彩り豊かな果物類、加工食品は見事というほかありません。

古風な石作りの住居の路地に張り出したカフェテラスで、ランチを食べることにしました。生ハムとチーズをおつまみに、ビールを飲んでワインを楽しみました。最後は定番のパエリアですが、注文して30分と言われましたが、実際に出てきたのは1時間後でした。船出の時間までたっぷりであったので慌てることもなく堪能できました。









代金は4人で、生ビール5杯、ワイン 4 杯、生ハム、チーズ、パエリア 2 人前で一人、4300 円ですから、円安の今の時代、安い値段に思えました。手土産においし

いいハム類などを物色しましたが、これは国内持ち込み不可と知り、カナリア諸島の思い出だけを胸にしまって別れを告げました。

## PEACE BOAT で世界一周の旅ーその 26

2024/05/28

### オカリナのレッスン始まる

学校の講堂と同規模のどでかい会場が船にあります。朝早く、楽器を練習する会場に開放しており、午前7時過ぎから様々な楽器を手にした乗船客が集まってきます。筆者はここでオカリナを習いたいと乗船前に買い込んだ陶磁器製のオカリナを持ってきましたが、初心者でドレミも満足に音が出ない。気おくれをしているときに、誘ってくれる方がいて参加することにしました。



## 指導してくれるのは元校長先生

筆者の船上でのオカリナの先生になったのは、群馬県で40年間、教員生活を送った徳江裕さんです。古希(数え70歳)を迎えたとき、次の人生を紡ぐ構想を練るため、PEACE BOATに乗船したという方です。徳江先生のオカリナ歴をお聞きしました。

2014年、校長として最後の務めをしていた年、オカリナと徳江先生の縁は偶然から芽生えました。課外授業で訪問した陶磁器を焼いている窯場で、初めてこの楽器を見て手にし、試しに吹いてみるといい音が出ます。その場は感心して終わりましたが、後日、窯場から焼きたてのオカリナが送られてきました。最初は大事に校長室に飾って来訪者に見せて楽しんでいました。

あるとき、ふいにオカリナを吹いて卒業する児童を送ってやりたいとの思いが芽生えたのです。それから曲目を考え、自身の力量と相談し、誰もが知っている曲を考えました。いろいろ練習曲を吹いているうち「ふるさと」が浮上してきました。「うさぎ追いし かの山・・・」あの歌です。それから毎日、懸命の練習が始まりました。

紅白のまん幕を張った会場で、この日卒業式が粛々と運んでいました。校長先生は式辞を述べるのが定番ですが、徳江先生は式辞の代わりに卒業式の最後に児童たちに送る言葉で締めくくることを考えていました

そのとき卒業式にお祝いの言葉を語った後に、オカリナ演奏をして子供たちを送り出そうというアイデアでした。卒業しても小学校時代の良き思い出を折に触れて思い出し、生きていくエネルギーに変えてほしいという思いがありました。



オカリナの吹き方は息を吹き込むところが難しい。手本を何回も見せてくれました。

猛練習をして準備してきた「ふるさと」を吹き始めると、子どもたちの表情がみるみる変わっていきました。心の中で唄いながら、野や山で走り回ったあの風景と級友と遊んだあの光景がよみがえり、突き上げてくる感動を懸命にこらえていました。

弾き終わると万雷の拍手が会場を揺るがし、吹き終わった徳江先生の手が感動で震えていました。

紙に書いた式辞を読むのではなく、送り出す校長の万感の思いをこの一曲に込めた感動が、見事に花開いた瞬間でした。

「ふるさと、この曲、私は好きなんですよ。出だしを歌い出すと子ども時代をどうしても思い出します」と筆者が言うと「誰でも同じです。この曲は日本人のふるさとでもあります」と徳江先生は言います。この曲の練習が始まりました。



徳江先生は、定年で教員生活を引きましたが、大学の非常勤、幼稚園の事務局長など教育の場から離れることはなく、子どもたちの理科教育にも取り組んでいるとのこと。

果たして下船するまでに、2, 3曲、満身に吹けるようになるかどうか。なんだか、緊張感高まるレッスンが始まっています。

### 沖縄返還の講演で追加発言

先日、沖縄返還の際の理不尽な密約・密使を展開して、負の遺産を残した佐藤栄作総理の話をした際に、時間を間違えて肝心の最後の方が尻切れトンボになっていました。講演後に聴者から最後の方をやり直してほしいという希望が寄せられ、追加発言として40分間の講演をしました。



沖縄の追加講演では 250 人ほどの人が聴きに来てくれました。

この講演は、密約・密使外交を暴くためではなく、真実を検証しないでほったらかしにする日本は、同じ過ちを繰り返すという負の教訓を語るためでした。公文書管

理が先進国の中で突出して劣っている点も強調し、負の遺産を断ち切ることを強調して追加発言を終えました。

## 本書を上梓した著者の目的

沖縄返還がよかったか悪かったかを問うために書いたものではない。  
密使・密約をあばくためでもない。

歴史の真実を検証し、民主主義国家のあるべき姿を考えるために書いた。

うやむや始末が日本を成熟国家にしない最大の原因だと確信している。



37

## PEACE BOAT で世界一周の旅—その 27

2024/05/30

延々と続く待ち行列に仰天

ポルトガルの首都・リスボンに接岸すると待ちかねたように乗船客は次々と上陸していきます。アフリカのように面倒な入国手続きはなく、ほぼフリーの状態の上陸です。船が用意したバスに乗って中心部の広場まで行き、そこで夕方まで自由行動と言われて解放されました。

レストランや土産物屋を覗いていると、船の仲間から「入りませんか」と誘われて、リヤカーに毛が生えたような屋根付き開放 3 輪車に乗りました。運転手兼ガイドは、10 年ほど日本で働いていたという 50 歳がらみの体格のいい旦那です。日本語が出来るのが、何よりも「安心の素」です。



事前の交渉で、1人7000円で2時間の案内ということで4人掛けの3輪車に乗りました。乗ってみると思ったよりゆったりした座り心地で満足です。旦那にいきなり、世界遺産に登録されているジェロニモス修道院に連れて行かれました。



マヌエル様式の傑作とされるジェロニモス修道院を取り巻く入場待ちの行列

### 大航海時代の豪華な展示物は見られず

この建物は、大航海時代の英雄、ヴァスコ・ダ・ガマらの功績を称えて 16 世紀に着工して完成した豪華絢爛たる建築物です。遠くからでもそれと分かる偉容を見ながら近づいて見ると、大勢の「群衆」が取り巻いています。聞けば、入場待ちの行列で、延々と続く列の最後尾を探しても、見えない彼方をさらに奥へ曲がって続いているといいます。

ウイークディというのに観光客であふれていることに仰天しました。大航海時代の海外交易で、巨万の富をつぎ込んだマヌエル様式の傑作といわれる建造物と珊瑚や天球儀など往時を誇示する緻密な美でつくったモチーフが随所にあるという触れ込みでしたが、入るまで優に 2 時間はかかると言います。早々に入館は諦めて建物をバックに記念写真となりました。



週末でもないのにこの人出は一体、何でしょうか。ヨーロッパいや世界各地から集まってきた観光客でしょうか。人々の会話を聞いていると、英語はほとんど聞こえてこないのに、ヨーロッパの人々のようでした。アジア人の割合も少ないように感じました。

ジェロニモス修道院のあたりは、有名な観光地域なのでとにかく人の渦があちこちに巻いています。前を流れるテージョ川に面して「ベレンの塔」があり、そちらは人があまりいないかと近づいてみたら、なんとこちらから見えなかった丘の下に「群衆」がとぐろを巻いていたのです。こちらも入場待ちの行列です。



ベレンの塔の前でテージョ河畔のそよ風の中でその昔を回想

早々に退散して「発見のモニュメント」という巨大な建造物を眺めながら、しばらく川面の風に当たりながら小休止となりました。



「発見のモニュメント」をバックに

リスボンには、30年ほど前に取材で来たことがありますが、街の様子記憶はありません。当時、マラソンで世界最高記録を樹立した、カロレス・ロペス選手の写真を一枚、撮ってきてくれと運動部から依頼されて撮影に行ったことだけは思い出しました。ヨーロッパ各地の取材の合間に下命されたもので、彼は1984年のロサンゼルス・オリンピックで五輪記録で金メダルに輝き、翌年にはロッテルダムマラソンで2時間8分の壁を破る世界最高記録を樹立したポルトガルの英雄でし

た。86年には東京マラソンに出場するということで、その前触れの記事を作るので写真を撮ってこいという社からの下命でした。

そんなことを思い出しているうち、約束の2時間も迫ってくるし、案内の旦那は船の近くの港の丘にとってもいい古風な街があるので、そこでチンチン電車(トラム)に乗ったり、土産物屋を物色するのがいいと薦められて、そちらに移動することになりました。



港の丘の上から「我が家(パシフィック・ワールド号)」を見ながら散策

行って見たらこれが大当たり。起伏に富んだ丘の上に古い石作の家々が貫禄を出して並んでおり、これがなかなかいい感じです。洒落た土産物屋とレストランが路地を接して所狭しと並んでおり、飽きさせません。



建物を仕切っている路地の間から一望できる遠くの港には、我が家の船が存在感を出して見えます。ここで夕方まで過ごして帰宅という段取りを決めて、あとは各自バラバラ行動になりました。

Wi-Fi 接続フリーのレストランを探して入ってみると、これも大当たり。早速ビールにチーズ、ソーセージ、海鮮スープをいただきながら、久しぶりに日本の方々とラインで会話が出来、大満足のリスボン寄港でした。タダの Wi-Fi 接続を探すのも楽しいものです。船の Wi-Fi 接続はコストが高いのです。

次はフランスのル・アーブル寄港になりますが、そこまで 3 日の航海になります。



## PEACE BOAT で世界一周の旅—その 28

2024/06/01

学校で習わなかったから知らない

とかくご婦人たちの会話は、情報が多岐に渡り、参考になります。船のレストランのテーブルを 6 人で囲んだ夕飯の席を見渡すと男性は筆者だけで、あとはやや歳を重ねた「妙齡」のご婦人ばかり。こんな会話が聞こえてきました。

街の両替屋で日本のお札を出したところ受けつけない。理由を聞いたら、円相場の上下が激しく、さらに今度、お札のデザインが変わるので不安だと言われたとか。

古いお札も流通するから心配ないと言っても通じないらしい。

「しかし、さすが両替屋よね。日本のお札デザインの切り替え情報をちゃんと持っていた」と言えば、「日本を信用してないってことでしょう」となり、話は最近の政治、経済情勢から日本の停滞状況など際限なく広がります。

**新紙幣の肖像が20年ぶりに変わる**

	→ 渋沢栄一	発行開始 2024年7月3日  紙幣を斜めにすると 肖像が立体的に見える
	→ 津田梅子	
	→ 北里柴三郎	

お札デザイン切り替えでは、千円札の肖像が野口英世から北里柴三郎へバトンタッチされる話をとらえて、筆者の出番が回って来ました。この 2 人の巨人について

は、ついついしたり顔で 2 人とも、後一步でノーベル賞受賞だった史実を語ったところ「そんなこと、学校で習わなかった」となり、企画講演することになりました。

## 野口英世のノーベル賞物語と掲げた意味

福島県の寒村、猪苗代湖畔で生まれ、1歳のとき左手に大やけどで障害者に。高等小卒の学歴で医院の書生となり猛勉強。ドイツ語、英語で書かれた医学書を読破。21歳で医師国家試験免許に合格。アメリカに留学して頭角を現し、世界の先端細菌学者として知られ、ノーベル賞候補として日本人の最多回数の推薦を受けた。



「学校で習わない」という言い方は、妙に説得力があります。しかし、習わないということは教科書に書いていないことを示すようで、入試にも出ないということになります。こういう教育を「与える教育」と言うようですが、いつまでたっても与えるだけの教育では、発展性もないし今の時代のスピードにも追いつけません。

いまは知らないことが出てくるとスマホで簡単に検索して知識を得ることができます。

### 世界の先端医学研究に取り組んだ野口

野口英世の伝記は、小学生にはいまでも人気があるようです。15歳で学校を卒業後は、独学でドイツ語、英語などの文献を読みこなし、今で言う医師国家試験を21歳で取得し、間もなくアメリカに留学します。

その後は、ペンシルバニア大学医学部のフレクスナー教授の指導のもとに瞬く間に細菌学、血清学などを習得して多数の論文を書き、ついに梅毒スピロヘータを進行性麻痺・脊髄癆の患者の脳病理組織で確認して、この病気と梅毒との関連を明らかにしました。

年	推薦された人	野口を推薦した人
1913	野口英世	平井太郎(京都帝大医科大学)
"	野口英世	A. Salvat(セビリア)
"	野口英世	C. S. Bacon(シカゴ)
"	野口英世	C. S. Butler(ワシントン)
"	野口英世	C. L. Gibson(ニューヨーク)
"	野口英世	A. Carrel(ニューヨーク)
"	野口英世	M. Mayer(ハンブルク)
"	野口英世	E. Libman(ニューヨーク)
"	野口英世	H. da Rocha-Lima(ハンブルク)
"	野口英世	S. Flexner(ニューヨーク)
"	野口英世	D. Claus-Schilling(ベルリン)
"	野口英世	W. A. Oppel(ペテルスブルク)
"	野口英世	松浦有志太郎(京都帝大医科大学)
"	野口英世	Alfred Lendon(オーストラリア)
1914年	野口英世	伊藤集三(京都帝大医科大学)
1915年	野口英世	Alexis Carrel(パリ)
1920年	野口英世	Paul Vuillemin(ナンシー)
1921年	野口英世	J. De Azua(マドリッド)
"	野口英世	H. G. Wells(シカゴ)
1924年	野口英世	E. Hoffmann(ボン)
1925年	野口英世	J. A. Fordyce(ニューヨーク)
"	野口英世	A. Carrel(ニューヨーク)
1927年	野口英世	松本信一(京都帝大医学部)

1913年は、野口が麻痺性痴呆は梅毒スピロヘータが原因であることを突き止めた直後。

1914年 最終選考11人の中に野口

1915年 最終選考9人の中に野口

1915-18年まで第一次世界大戦でノーベル賞は中止

延べ23人から推薦を受けた。そのうち日本人推薦者は4人でいずれも京都帝大医学部教授。

1913年には、この業績だけで世界中の14人からノーベル賞候補の推薦を受け、最終選考にも残っていました。この推薦を始め、延べ23人から推薦を受け、

今一步で受賞という輝かしい活躍ぶりでした。





## 細菌学者として世界トップに躍り出る

- 37歳
- 梅毒スピロヘータを進行性麻痺・脊髄癆の患者の脳病理組織で確認。
- この病気と梅毒との関連を明らかにした。
- 精神疾患と感染症の関係を初めて示した。
- 小児マヒ、狂犬病の病原体特定を発表（のち否定される。いずれもウイルスだった）



### 明治時代の医学研究の2人の巨人

7月3日に、1万円、5千円、千円のお札の肖像が20年ぶりに変わります。最も国民になじみのある千円札の肖像は、野口から北里柴三郎へとバトンタッチされます。そのような節目のときでもあり、偏差値などと無縁だった時代、福島県の寒村から高等小学校卒の学歴で世界の先端研究者になった野口の人生はあまりにドラマチックです。乗船している PEACE BOAT が、数日前に野口が黄熱病にかかって斃れたガーナ沖を通過してきたばかりです。その縁も入れて話を進めました。

## 野口の死を悼むアメリカ

- 野口最後の言葉 「私には分からない」
- 遺体はニューヨークまで運ばれ、6月15日、ニューヨークのウッドローン墓地に埋葬。メリー夫人と共に眠っている。
- ロックフェラー研究所は、野口を「古今を通じて最大の細菌学者の1人」と称賛。
- 5月22日 - ロックフェラー研究所は、野口の死を悼み半旗を掲げた。
- 5月23日 - ニューヨーク・タイムズ、モーニング・ワールド、ヘラルド・トリビューンなどが社説で、野口の死を惜しみ、功績を称えた。



「科学への献身を通じ、人類のために生き、人類のために死せり」



150人ほどが聴きに来てくれましたが、講演後の感想は「そんなこと知らなかった」という声ばかりであり、野口のドラマチックな人生は、色あせることなくさらに輝きを増していることを知りました。

偏差値一辺倒の大学入試制度、メディアも含めて有名大学入試競争の現場をこれ見よがしに報道する姿勢がある限り、野口のような英雄は出てこないでしょう。

次は、フランスのル・アーブルに寄港する予定です。

## PEACE BOAT で世界一周の旅—その 29

2024/06/01

### ノルマンディーに上陸

第二次世界大戦の激戦地で有名なノルマンディー上陸作戦の舞台になったその地に「上陸」とはびっくりでした。この地方最大の港であるル・アーブルに船が接岸したとき、大荒れの海の中であり小雨降る肌寒い朝でした。

整備された都市計画は、古い時代の遺産を活かした街並みが素晴らしく、ユネスコ世界遺産にも登録されています。多くの印象派の画家が描いたエトルタ、アヴァル断崖と海岸線の絶景、自然環境とその景観は素晴らしく、さらに歴史的な教会、大聖堂、宮殿、修道院などの遺産も点在しています。



往時の修道院は美術館になっていますが、その一部ではフランスで最古の歴史と品質を誇るコニャック、ブランデー、リキュールが醸造されています。

最低でも 3 日は必要な一大観光地をたった 1 日で見学するというのが船旅の宿命です。9 つのツアーが用意されていましたが、参加できるのは 1 つだけ。筆者は、最古のリキュール発祥のベネディクティン修道院とそのリキュールとコニャック、ブランディーが試飲できるコースに参加しました。



修道院の中に入ってみると歴史を感じさせる美術館であり、一角には醸造工場が併設されていました。

#### 古色蒼然と豪華な建築様式を両立させた修道院

1510年にベネディクト派の修道院として建築された建物は、あたりを圧倒する威厳を保っており、午前10時きっかりに門が開けられて入りました。

この修道院は非常に戒律の厳しいことで知られていたそうで、私語はもちろん許されず、作業の間もひたすらお祈りの言葉と姿勢を崩さなかったという説明には驚きました。朝起きてから夜寝るまで、ひたすら信仰の心にすがりついた修道院の中で、アルコール飲料が醸造されていたとは理解を超えるものでした。



歴史を刻んだ展示品は、多くが醸造に使った道具類と文献類でした。







**修道院時代の展示品は気品を感じさせるものばかりで見とれました**

このリキュールは、さまざまな薬草と蜂蜜を材料にしたもので、度数はなんと 40 度。長寿にいいとされた薬用飲用となり、長い歴史を紡いで来たとのことでした。

**口中を満たす芳醇な香りとコクのある甘み**

修道院はのちに事業家の手に渡り、そこでフランス最古とされるリキュールの醸造製法が引き継がれました。さらにその醸造法に工夫と創意をいれてコニャックとブランデーの醸造に発展させ、コクのある上品な甘さは洋菓子の風味付けに絶好とされるようになり、世界中に輸出されました。



用意されたスタンドでコニャック、ブランディ、リキュールをいただきました

リキュール販売で儲けた資金で、往時の醸造器具類や修道院の素晴らしい調度品類などを買い集めて整理し、豪華なたたずまいのある美術館として完成させたのでした。

スタンドグラスの目を見張るような絢爛たる壁面や醸造道具類の展示物は、歴史そのものであり、現在の醸造手法も多くの職人が丹精込めて取り組み、新たな手法も編み出しているとのこと。近代的な作業現場と伝統的な現場を融合させた醸造現場の一端を見せてくれました。

コニャック、ブランディ、リキュールを入れたグラスが用意されており、みんなで試飲することになりました。グラスを口元に寄せるとなんとも言えない甘い香りが立ちのぼり、口に含むとアルコール度の強い芳醇な液体が一瞬の中で広がり、ため息に似た声と息遣いがあちこちで発散していました。



印象派の画家たちの眼を引いた断崖風景



古い街並みには古風なホテルやレストラン、土産物屋が並び一時間ほど歩いて楽しめました。

船の出航時間に合わせて港に引き返します。ガイドさんが「せっかく来たのにすぐ船に帰るのはもったいない」と残念そうな顔をしてくれましたが、何しろ世界一周という目的があるので、どこに上陸しても駆け足の見物で帰船して出航ということになります。これもまた、船旅の醍醐味でしょうか。

## PEACE BOAT で世界一周の旅—その 30

2024/06/03

ロンドンで記録的な大渋滞に巻き込まれる

日の出・午前 4 時 46 分、日の入・午後 9 時 07 分。これがロンドンの日の出・日の入です。やたら日中が長いので、少々、調子が狂いますが、この日のロンドンはさらに狂いました。

一泊 2 日、12 万 2 千円という「豪華」なオプションツアーに参加しました。ロンドン市内観光、市内でホテルに泊まり、翌日はあの有名な環状列石といわれるストーンヘンジ(stone henge)の見学です。ティルベリー港を降りてバスに乗り換え、翌日、そのバスで帰って来るというバス旅行の日程です。

異変は、ロンドン市内に入るところから出てきました。渋滞が続き、市内に入ると路上の車は 1 センチも動きません。ガイドからの説明がなかったので、何も知らないで座席でうつらうつらしていますが、はっと気がついても車窓からの景色は何も変わっていません。





タワーブリッジの近くでバスを降りますが、周囲は人の波で近づくことは諦め、まずはトイレを探すことに追われました。

ようやく入った情報によると、この日、土曜日はイスラエルとパレスチナ紛争を巡ってイスラエルの過剰な攻撃に反対するデモと環境問題の対応不満のデモが重なり、あろうことかスペインとイギリスが対戦するサッカーの試合が開催されて、外国から大挙、見物客が押し寄せてロンドンが燃え上がっているというのです。

ロンドン警視庁とロンドン近隣から集まってきた警備・警察官が強制的に道路を封鎖してデモ隊を規制し、サッカー見物から派生する騒ぎを抑え込もうということですから、一般の通行規制ではなくロンドン一帯の「戒厳令」に等しい規制ではないかと思いました。

こちらは、バスに缶詰状態なので、街の騒動の様子は何も分かりませんでした。

**観光地は人・人・人の洪水**

ウエストミンスター寺院、国会議事堂、ビッグベン、タワーブリッジなどロンドンを代表する観光が組み込まれていましたが、国会議事堂が見えるところまで来たときは、予定時刻を大幅にオーバーしており、車窓見学ということになりました。



バスの車窓から遠く眺めた国会議事堂。ビッグベンもかろうじて見えたという程度であり、ウエストミンスター寺院は近づくことも出来ませんでした。

このツアーは元々、接岸の時間で午後 3 時ころから出発したので時間的な余裕がなく、観光地に着いても慌ただしく写真撮影後には移動ということでしたが、ともかくも近づいてまたまた驚きました。

見物客が入場の列を作っているのか、はたまた単にあふれているのか不明でしたが、どこへ行っても人人人の波です。こちらは高齢者の集まりですから、最大の懸念はトイレです。しかし国会議事堂が見える場所に行ってみたら、公衆トイレは封鎖されており、思いあまってファストフードになだれ込んでトイレを拝借。時間の都合で何も飲まずにさっさとバスへ退散ということになりました。



ようやく見つけた公衆トイレはご覧のように封鎖。デモ隊の動きに応じて強制的に封鎖のようです。慌てて近くのファストフード店になだれ込み、迷惑承知で用を済ますという有様でした。

こんな繰り返しをしてやっとの思いで、予定より大幅にオーバーしてホテルに到着しました。慌ただしく夕食をとって寝ることになり、予定していた買い物なども出来ずに不満やるかたない初日になりました。



ロンドンから出発する列車の駅は芸術品かと思うほどに立派な建物でした。蒸気機関の発明から鉄道の歴史を作った国を思いました。

翌日の日曜日は、一番、期待しているストーンヘンジの見物です。それだけが期待に置き換わり、初日は慌ただしく暮れていきました。

翌日、朝早くホテル周辺を散策すると思わぬ光景に出くわしました。筆者の名前の「Baba」と同じ名前のレストランの看板を見たのです。開店していればすぐさま入って店主に挨拶するところですが、日曜日の早朝ですから開いていませんでした。



ロンドン市内で筆者が経営するレストランです(fake news)